

科目名	介護実習（教職）		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

高等学校教諭一種免許（福祉）を取得するための必修科目である。

科目の概要

利用者との人間的なふれあい、コミュニケーションを通じて、利用者の生活と介護の機能並びに施設職員の一般的な役割について実践的に理解する。

学修目標

- ・利用者の生活について理解を深める。
- ・高齢者・障害者施設の概要や役割について理解する。
- ・「個人の尊厳」や「人権」について考え、理解を深める。

内容

- ・事業所での10日間に及ぶ学外施設実習である。
- ・実習施設は認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護・デイサービスセンター・生活介護事業所等々である。
- ・実習前後の指導を行う。

評価

実習状況・記録物・教員との面接・実習施設による評価・自己評価などにより総合的に評価する。

授業外学習

- 【事前予習】学生各自が作成した個人目標・実習計画に沿った事前学習を行う。
- 【事後学習】実習反省会、実習記録等により実習全般を振り返り、実習課題を見出し、今後の実習につなげる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書等については後日指定する。

「実習の手引き」等資料を配布する。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布されたプリントをもとに出題された課題に取り組む

【事後学修】学習したことを、子ども理解、教育活動の理解と結びつけるように考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育課程論		
担当教員名	曾 貧		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科（英語・国語など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票（20点）、課題研究（80点）とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育課程論		
担当教員名	曾 貧		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科（英語・国語など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合し、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

内容	
1	1. 教育の目的と方法(ガイダンス)
2	2. 教育方法の基礎理論
3	3. 学習理論の展開
4	4. 問題解決学習の方法
5	5. 学習形態と学習指導
6	6. 教育課程の編成
7	7. 授業設計の手順と教材研究
8	8. 目標分析と評価問題の作成
9	9. 学習評価の理論
10	10. 「関心・意欲・態度」の評価、総合的な活動の評価
11	11. 教授メディアの発達
12	12. ICTの授業における活用
13	13. 情報化を意識した授業設計の考え方
14	14. 総合課題
15	15. まとめ

評価

- 1 授業ごとの課題提出(30%)
 - 2 最終試験の達成度(70%)
- とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

- 【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る(2時間)
- 【事後学修】総合課題の見直し(1時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
 - ・『自ら学び考える教職教養』松田・星野・狩野・津吹 (学文社)

・『学習者のともに取り組む授業改善』松田・星野・波多野（学文社）

科目名	教育方法		
担当教員名	安達 一寿、曾 貧		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

いかに取り扱う内容を示す(順不同)。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術(教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など)【狩野】
- 2 授業が目指すものは何か(授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性)【狩野】
- 3 授業の構想と計画(構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究)【狩野】
- 4 指導案作成(実習課題)【狩野】
- 5 教えることと支援すること(本気で教えること、学習支援と称して放置すること)【狩野】
- 6 問いの創造と授業の展開(問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態)【狩野】
- 7 教材づくり・教材発掘の視点(教材づくり・教材発掘の視点、教材研究)【狩野】
- 8 授業と教授メディア(教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか)【安達】
- 9 コンピュータの利用(コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割)【安達】
- 10 学習障害(LD)の理解と指導(学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法)【安達】
- 11 特別支援教育と方法・技術(特別支援教育、Normalization, ADHD)【安達】
- 12 授業と教師(教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば)【狩野】
- 13 教育評価の役割と方法【安達】
- 14 学力と教育評価の課題(予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力)【安達】
- 15 まとめ【狩野】

評価

評価は、授業態度(授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況)を10%、課題の提出状況と達成度を40%、最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を読解し、内容を理解する。疑問点を析出し、追究する。

【事後学修】発表班の内容、班討論の内容等を省察し、振り返りのレポートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

内容

1	情報の意義や役割の理解（1）
2	情報の意義や役割の理解（2）
3	情報教育の全体像と目標
4	普通教科「情報」のねらいと教科（1）
5	普通教科「情報」のねらいと教科（2）
6	専門教科「情報」のねらいと教科（1）
7	専門教科「情報」のねらいと教科（2）
8	問題解決と演習の設計（1）
9	問題解決と演習の設計（2）
10	演習課題選択の観点
11	目標分析と年間指導計画の作成（1）
12	目標分析と年間指導計画の作成（2）
13	講義と実習の効果的な授業方法
14	グループワークの組織方法
15	まとめ

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（

60%)を総合して、60%以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書該当箇所に目を通しておくこと

【事後学修】課題を出すので、その実施をおこなうこと

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

内容

1	科目の性格と目標（1）
2	科目の性格と目標（2）
3	科目の性格と目標（3）
4	学習指導案と教材作成（1）
5	学習指導案と教材作成（2）
6	学習指導案と教材作成（3）
7	学習指導案と教材作成（4）
8	模擬授業（1）
9	模擬授業（2）
10	模擬授業（3）
11	授業評価と学習評価の考え方（1）
12	授業評価と学習評価の考え方（2）
13	授業評価と学習評価の考え方（3）
14	これからの教科「情報」
15	まとめ

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（

60%)を総合して、60%以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教材研究をおこなうこと

【事後学修】事後の評価をおこなうこと

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	社会科教育法（地理歴史科教育序論）		
担当教員名	澤田 康德		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職科目であり、授業への積極的な姿勢が必要となる。

科目の概要

地理・歴史科について概要を把握し、授業作りを実際に行う。

学修目標（=到達目標）

教科の内容を理解し、現代の生徒の状況などを併せた授業構築力を身につける。

内容	
1	教師像
2	地理・歴史科の特徴
3	地域認識
4	歴史認識
5	学習指導要領について
6	教科書の分析
7	教材研究 1
8	教材研究 2
9	授業案作成 1
10	授業案作成 2
11	授業案作成 3
12	発表
13	発表
14	発表
15	まとめ

評価

発表(50%)、レポート(50%)で総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】課題について、資料等収集する。

【事後学修】同上

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で適宜紹介する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	地理歴史科教育法		
担当教員名	川崎 誠司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）の中の各教科の指導法

授業の概要

かつての高等学校社会科の理念をふまえて現在の高等学校地理歴史科のあり方について考える。

社会科，地理歴史科の成立の歴史や理念，具体的な教育実践，教材研究の理論と方法，授業づくり等について考察するとともに，地理歴史科の直面する現代的・将来的課題を認識し，それへの取り組みについて検討する。

日本の教育事例のみならず積極的に外国（アメリカ）の事例も取り上げて，授業担当者自身の現地での経験もまじえながら，具体的な教育課題とくに国内の文化的多様化（多文化化）に対応する教育の実践について考究する。

授業の到達目標及びテーマ

社会科・地理歴史科の歴史と理念を踏まえ、学習者の置かれた社会や環境に即した教材研究の基礎を身につけるとともに、地理歴史科という教科やその学習のあるべき姿を展望する力をつける。

具体的な授業の観察（主としてビデオ資料）を通して、教育実習に必要なとされる授業分析のスキルの向上をはかる。

内容

1	オリエンテーション
2	地理歴史科前史・成立史
3	地理歴史科の理念と方法
4	学習指導要領の歴史の変遷（とくに高校「地理」）
5	学習指導要領の歴史の変遷（とくに高校「世界史」「日本史」）
6	地理的思考力の発達と地理学習
7	歴史的思考力の発達と歴史学習
8	教材研究は何から始めるか
9	授業づくりの理論と方法
10	授業観察の具体的実際
11	「移民」を取り上げた地理学習・歴史学習の理念について
12	日系移民の歴史的背景と教材化の視点
13	「移民」を取り上げた地理歴史学習の具体的構想（模擬授業）その1
14	同 その2
15	同 総まとめ（教材研究の理論と方法）

評価

地理歴史学習の具体的構想をプレゼンテーションさせ、その内容について評価する（70%）。他の受講生の構想について議論するが、それへの参加度も加点する（30%）。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指定したテキストの該当ページについて、熟読の後に自分の学習経験をもとに考えをまとめておくこと。

【事後学修】授業では、実際の授業実践の映像や多くの資料を活用するので、それらの視聴ノートを作成したりポートフォリオにまとめたりすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ？社会科教師の専門性育成？』東京学芸大学出版会，2010年

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は英語科教職課程カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様にこの科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

科目の概要

中学校・高校の教育課程全体における英語科カリキュラムの位置づけを背景として、英語科カリキュラム の実際について概論的に学びます。さらに、英語科教育の理論と方法について基礎的な事項を学びます。

学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際について理解します。

内容

毎回授業のはじめに、前回授業の復習テストを行います。

1	英語教育の目標
2	英語科カリキュラムの特色（学校教育内の位置づけ等を背景にして）
3	中学校学習指導要領の概要とその実践方法
4	高校学習指導要領の概要とその実践方法
5	言語の習得に関する理論
6	各種の英語教授法理論と方法
7	語彙・文法の学習と指導
8	リスニングの学習と指導
9	スピーキングの学習と指導
10	リーディングの学習と指導
11	ライティングの学習と指導
12	音声教材・LL教室等の教育機器を利用した学習と指導
13	教案の作成1
14	教案の作成2
15	まとめ

評価

(1) 定期試験： 70%

(2) 平常点： 30% （復習テスト（毎週）、課題提出（毎週））

とし、総合評価60点以上を合格とする。これに加え、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】次回の範囲となるテキストの問題を解いておくこと。

【事後学修】授業で行った箇所を次週の復習小テストに備えて解きなおしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示します

【推薦書】

【参考図書】文部科学省中学校学習指導要領（外国語）

文部科学省高等学校学習指導要領（外国語）

『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円＋税。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語科教職カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、3年次の英語教科教育法III, IVにつながります。教育実習に出るには、英語教科教育法I~IVすべての単位を取得する必要があります。

科目の概要

前期で学んだ点をふまえて、中学校・高校で実際に授業を担当した場合を常に念頭に置き、わかりやすい説明を行うための基礎となる基礎的かつ実践的な文法を適宜演習形式を取り入れて学びます。

学修目標 (= 到達目標)

中学校・高校で英語を教えるために必要な基礎的文法事項を身につけます。

内容

毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います。

1	文における基本的イントネーション
2	文字及び基本的な符号
3	文の構成と基本文型
4	文の種類 (疑問文、命令文、感嘆文、there構文)
5	名詞・名詞句・代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	現在完了
14	関係詞
15	まとめ

評価

(1) 定期試験： 70%

(2) 平常点： 30% (復習テスト (毎週)、課題提出 (毎週))

とし、総合評価60点以上を合格とする。これに加え、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】次回の範囲となるテキストの問題を解いておくこと。

【事後学修】授業で行った箇所を次週の復習小テストに備えて解きなおしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示します

【推薦書】『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円＋税。

【参考図書】

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は英語科教職課程カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、この科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

科目の概要

「英語教科教育法Ⅰ,Ⅱ」(2年前期後期)で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学ぶ。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとする。

学修目標 (= 到達目標)

(i)英語科教育の理論と方法について理解し、授業の指導案を作成できる、(ii)指導案をもとに模擬授業を行い、改善点を発見し、修正することができる。

内容

下記と並行して、英語力アップのための小テストを毎回行うとともに、動詞、準動詞を中心に英文法の総整理をおこなう。

1	公開研究授業のビデオの視聴(1)
2	公開研究授業のビデオの視聴(2)
3	公開研究授業のビデオの視聴(3)
4	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)(1)
5	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)(2)
6	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(1)
7	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(2)
8	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(3)
9	文法・語彙の指導(1)
10	文法・語彙の指導(2)
11	教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)(1)
12	教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)(2)
13	模擬授業(学生同士の授業分析と評価)(1)
14	模擬授業(学生同士の授業分析と評価)(2)
15	まとめ

評価

(1)授業への参加状況 20%

(2)小テスト 40%

(3)レポート、または期末テスト40%
とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの指定された箇所を読み、事前準備シートをもとに疑問点等をまとめておく。取り上げる文法事項について説明できるようにしておく。

【事後学修】定着していない文法事項について復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社。

【推薦書】

【参考図書】授業で紹介する

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語科教職カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、教育実習に出るには、英語教科教育法I～IVすべての単位を取得する必要があります。

科目の概要

「英語教科教育法 Ⅰ」(2年前期・後期)および「英語教科教育法 Ⅱ」(3年前期)で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにする。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 授業で学んださまざまな教授法を実際の模擬授業で試してみる、(ii) 模擬授業を通して自分なりの教授法を確立する。

内容

- (1) 実習校での使用予定の教材研究を行った上で、教案を作成し、それに基づいて50分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、批評をし合う。
- (2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。
- (3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

評価

- (1) 授業への参加状況 20%
 - (2) 小テスト 40%
 - (3) レポート、または期末テスト 40%
- とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】テキストの指定された箇所を読み、事前準備シートをもとに疑問点等をまとめておく。取り上げる文法事項について説明できるようにしておく。
- 【事後学修】定着していない文法事項について復習しておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社。
- 【推薦書】
- 【参考図書】授業で紹介する

科目名	福祉科教育法		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

高等学校「福祉科」教員資格取得のための教職課程科目である。高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成において重要な科目である。

科目の概要

教育法 では福祉科のねらいと特質、単元構成、教科研究などを取り上げて学習する。授業では、講義、演習、発表、体験的実践等の方法を取り入れる。

学修目標（＝到達目標）

- ・高等学校福祉科の基本理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解できる
- ・福祉観の捉えなおし（意識化と相互理解・相互啓発）
- ・学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解ができる
- ・上記を通しての教育観の捉えなおし

内容

1	福祉教育の意義と福祉
2	福祉科の目標
3	福祉科の内容構成
4	7科目の教材研究 「社会福祉基礎」
5	7科目の教材研究 「社会福祉制度」
6	7科目の教材研究 「社会福祉援助技術」
7	7科目の教材研究 「基礎介護」
8	7科目の教材研究 「社会福祉実習」
9	7科目の教材研究 「社会福祉演習」
10	7科目の教材研究 「福祉情報処理」
11	教材研究のまとめ
12	福祉科の指導上の留意点
13	福祉科における実習・演習の意義と指導法
14	福祉科における実習・演習の意義と指導法
15	まとめ

評価

レポート30点、発表60点、平常点10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業で予習内容を指示する

【事後学修】毎回の授業で学修内容を指示する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領解説 福祉編」実教出版

大橋謙策編「福祉科指導法入門」中央法規出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	福祉科教育法		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

高等学校「福祉科」教員資格取得のための教職課程科目である。高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成において重要な科目である。福祉科教育法 の履修済みが前提となる。

科目の概要

教育法 では学習指導、授業研究、実習の指導などを体験的・実践的に学ぶ。授業では、引き続き、講義、演習、発表、体験的实践等の方法を取り入れる。教育法 に引き続き、学習指導の各種手法についての体験的・実践的に理解することが求められる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・福祉科科目の目標とその指導法を理解ができる
- ・福祉科学習指導案を作成する力を身につける
- ・模擬授業演習を通じて、学習指導案を検討し、授業を改善することができる

内容

1	授業のねらいと概要 (学習指導案作成および各科目指導法について)
2	福祉科の指導法の概要
3	「社会福祉基礎」の目標とその指導法
4	「介護福祉基礎」の目標とその指導法
5	「コミュニケーション技術」の目標とその指導法
6	「生活支援技術」の目標とその指導法
7	「介護課程」の目標とその指導法
8	「介護総合演習」の目標とその指導法
9	「介護実習」の目標とその指導法
10	「こころとからだの理解」の目標とその指導法
11	「福祉情報活用」の目標とその指導法
12	福祉科学習指導案の作成と改善の検討
13	模擬授業 1 (授業評価及び指導案の検討を含む)
14	模擬授業 2 (授業評価及び指導案の検討を含む)
15	模擬授業 3 (授業評価及び指導案の検討を含む) まとめ

評価

ミニレポート10点×3、最終レポート70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業で予習内容を指示する

【事後学修】毎回の授業で学修内容を指示する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大橋謙策監修「文部科学省検定済教科書 社会福祉基礎」中央法規出版

【推薦書】必要に応じて紹介する

【参考図書】

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 の科目のうち1つ目にあたる。

科目の概要

家庭科教育法 では、家庭科教育の理念と意義、歴史的変遷と新しい教育課程における中等家庭科教育の課題を明らかにする。また教科の目標、内容、指導方法、評価について体系的に理解し、系統的なカリキュラムの編成に必要な能力を身につける。

学修目標（=到達目標）

- ・家庭科教育の理念・意義および歴史的変遷を学ぶことで家庭科教育への理解を深め、教職への意欲を高める。
- ・中等家庭科教育の目標、内容、指導方法、評価を体系的に理解できる。

内容

- 第1回： 家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）
- 第2回： 家庭科教育の理念と意義（家庭科教育の独自性、家庭科で育てる生活者）
- 第3回： 家庭科教育の歴史的変遷1（女子教育から共に学ぶ教科へ、戦後の教育改革と家庭科の誕生）
- 第4回： 家庭科教育の歴史的変遷2（社会の変化と共学家庭科の実現過程）
- 第5回： 現代の生活課題と家庭科教育（生徒の生活環境と生活実態の把握、生活実践力の育成）
- 第6回： 諸外国の家庭科教育1（教育制度、カリキュラム理論、学習内容）
- 第7回： 諸外国の家庭科教育2（学習方法、他教科との関連、教育をめぐる社会背景など）
- 第8回： 家庭科の学習指導要領1（カリキュラム構築の視点、学習指導要領にみる家庭科）
- 第9回： 家庭科の学習指導要領2（小・中・高等学校の学習指導要領と家庭科教科書の内容比較）
- 第10回： 家庭科教育のカリキュラム1（カリキュラム編成の基本原則、家庭科の学習目標）
- 第11回： 家庭科教育のカリキュラム2（家庭科の学習内容と学習方法）
- 第12回： 家庭科の授業設計1（授業設計とは、授業観の変遷、生徒の発達と学習意欲）
- 第13回： 家庭科の授業設計2（年間指導計画、学習指導案、題材の指導計画、教材化の視点）
- 第14回： 家庭科学習の評価1（評価の基本原則、評価の種類と特徴）
- 第15回： 家庭科学習の評価2（授業実践と評価、生徒の学びを多様に評価する方法）

評価

レポートまたは課題60点と、演習（模擬授業 他）40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書や配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。

【事後学修】講義の内容や他の受講生の意見等をもとに、自分の考えの変容をまとめて記録する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 、 の科目のうち2つ目にあたる。

科目の概要

家庭科教育法 では、指導目標、指導内容等の整理とともに、教材研究を通して、指導内容、指導方法の理解を深める。1単位時間の具体的な指導計画の立案を通じて、実践的な指導に必要な力量の理解と習得を図る。なお、中学校、高等学校における授業の構想について教育現場の講師の講話により理解を図る。

学修目標（＝到達目標）

- ・家庭科教育の指導目標、指導内容を理解する。
- ・1単位時間の授業を構想し、学習指導案やワークシート等を作成できる。
- ・家庭科授業を実施するために重視すべき事項を説明できる。

内容

- 第1回：家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）
- 第2回：家庭科のカリキュラムづくり（家庭科カリキュラム構築の視点、学習目標）
- 第3回：家庭科の学習内容（家族・保育・福祉領域、衣食住、消費・資源・環境）
- 第4回：家庭科の学習方法1（学習指導要領にみる家庭科の学習方法、）
- 第5回：家庭科の学習方法2（実践的・体験的学習、問題解決的学習、アクション志向学習など）
- 第6回：学習指導案の作成と評価1（学習指導案の形式、題材設定の理由：教材観・生徒観・指導観）
- 第7回：学習指導案の作成と評価2（学習目標、指導計画、本時の学習内容、授業評価の観点）
- 第8回：学習指導案の作成と評価3（本時の学習指導案、ワークシートの作成、板書計画）
- 第9回：家庭科授業事例から学ぶ1（環境育、健康教育、福祉教育、地域文化教育など）
- 第10回：家庭科授業事例から学ぶ2（自立して生きる、共に生きるなど）
- 第11回：学習指導の実際：現場教師による講義
- 第12回：学習指導案の作成演習（基礎）
- 第13回：学習指導案の作成演習（応用）
- 第14回：学習指導案の作成演習（発展）
- 第15回：学習指導案の発表とまとめ

評価

レポートまたは課題60点と、演習（模擬授業 他）40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書や配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。

【事後学修】講義の内容や他の受講生の意見等をもとに、自分の考えの変容をまとめて記録する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 の科目のうち3つ目にあたる。

科目の概要

授業における指導力をつけるために、家族・家庭生活、衣食住生活、保育などの各領域について指導上の理解を深めるとともに、中・高校生向けの授業づくりや模擬授業を通して指導実践力を身につける。

学修目標（=到達目標）

- ・1単位時間の授業を構想し、学習指導案やワークシート等を作成できる。
- ・模擬授業を行い、家庭科授業を行うために必要な教授技術が理解できる。
- ・家庭科授業を実施するために重視すべき事項を説明できる。

内容

第1回： 家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）

第2回：教材開発1（教材開発の視点、教材開発方法）

第3回：教材開発2（家族・家庭生活と福祉の内容）

第4回：教材開発3（食生活と健康の内容）

第5回：教材開発4（消費生活と衣生活の内容）

第6回：教材開発5（住生活と環境の内容）

第7回：中・高等学校での授業観察

第8回：模擬授業の計画1（学習指導案、教材プリント、板書計画）

第9回：模擬授業の発表2（家族・家庭生活と福祉の内容、講義形式または演習形式で）

第10回：模擬授業の発表3（食生活の内容、講義形式で）

第11回：模擬授業の発表4（食生活の内容、実験・実習形式で）

第12回：模擬授業の発表5（衣生活の内容、講義形式で）

第13回：模擬授業の発表6（住居の内容、講義形式または演習形式で）

第14回：模擬授業の発表7（保育の内容、講義形式または演習形式で）

第15回：模擬授業発表の評価・分析

評価

レポートまたは課題60点と、演習（模擬授業 他）40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書や配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。

【事後学修】講義の内容や他の受講生の意見等をもとに、自分の考えの変容をまとめて記録する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 、 の科目のうち4つ目にあたる。

科目の概要

中・高等学校家庭科の学習指導の原理や教科の独自性を生かした学習指導方法について概説する。ま

た、生徒の学習活動を支援する指導方法の工夫や実験・実習を積極的に取り入れ、授業実践のための基礎的な考え方と方法を習得し、教職に対する動機づけをする。

学修目標（=到達目標）

- ・家庭科学習上の諸問題をふまえて、家庭科指導の特質や指導の在り方について考察できる。
- ・授業実践をふまえながら、生徒に応じた学習指導の工夫を考察できる。
- ・家庭科の授業分析を行い、良い授業とは何か自分なりの考えをもてる。

内容

第1回： 家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）

第2回：中学校家庭科の授業の特質

第3回：中学校家庭科の授業実践（基礎）

第4回：中学校家庭科の授業実践（応用）

第5回：高等学校家庭科の授業の特質

第6回：高等学校家庭科の授業実践（基礎）

第7回：高等学校家庭科の授業実践（応用）

第8回：学校段階ごとの教材研究と授業の構成（基礎）

第9回：学校段階ごとの教材研究と授業の構成（応用）

第10回：模擬授業の発表（基礎）

第11回：模擬授業の発表（応用）

第12回：模擬授業の発表（発展）

第13回：模擬授業発表の評価・分析

第14回：家庭科教育の課題と展望

第15回：これからの家庭科教師に求められる資質

評価

レポートまたは課題60点と、演習（模擬授業 他）40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書や配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。

【事後学修】講義の内容や他の受講生の意見等をもとに、自分の考えの変容をまとめて記録する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	保健科教育法		
担当教員名	齋藤 千景、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領における保健科教育全体の教育課程を学ぶ。保健科教育の目標や内容を押さえ、教育実践に展開するための理論と実際を学ぶ。

学習指導要領に基づいて、学校教育における保健教育の役割を理解する。また、保健の授業を組み立て、保健学習を行うために必要となる基礎的考え方を習得する。

内容

1	保健教育の意義と役割
2	保健教育の役割と教育課程の歴史
3	子どもの健康実態と保健教育
4	学習指導要領（1） 小学校
5	学習指導要領（2） 中学校
6	学習指導要領（3） 高等学校
7	学習指導要領（4） 特別支援教育
8	保健の指導計画
9	保健の単元計画（1） 小学校中学年
10	保健の単元計画（2） 小学校高学年
11	保健の単元計画（3） 中学校
12	保健の単元計画（4） 高等学校
13	保健教育の実践事例（1） 中学校
14	保健教育の実践事例（2） 高等学校
15	まとめ

評価

授業内に出題する課題への解答を60点、筆記試験の得点を40点に換算して評価する。

授業外学習

【事前予習】課題発表を多く設ける。発表の準備（個人・グループ）と予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 2008 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

参考書：適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	齋藤 千景、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

授業展開にそって単元指導計画と学習指導案を作成し、模擬授業の体験を通じて、実践的な指導力形成を目指す。

保健科教育法 で学習した知識と理論を踏まえて、また、保健科教育法 で学習した知識や技能を活用しつつ、教材研究や教材作成を行って、模擬授業を行う。

内容

1	授業準備とは
2	保健教育の年間計画について
3	指導案作成（1） 作成手順と方法
4	指導案作成（2） 単元の目標理解と学習内容
5	指導案作成（3） 教材研究
6	指導案作成（4） 学習指導案の作成
7	教授技術（1）板書、発問
8	教授技術（2）机間指導、評価活動
9	模擬授業と授業分析（1） 小学校中学年
10	模擬授業と授業分析（2） 小学校高学年
11	模擬授業と授業分析（3） 中学校
12	模擬授業と授業分析（4） 中学校
13	模擬授業と授業分析（5） 高等学校
14	模擬授業と授業分析（6） 高等学校
15	まとめ

評価

授業内に出題する課題への解答を60点、筆記試験の得点を40点に換算して評価する

授業外学習

【事前予習】課題発表の機会を多く設定する。発表の準備（個人・グループ）と予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 2008 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

参考書：適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	石山 隆之、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は教員の免許状取得のための教職科目「教育課程及び指導法に関する科目」である。

科目の概要

現代社会と健康に関する事項等に関する教育実践事例を学び、その指導法を習得する。

学修目標（＝到達目標）

保健教育において「健康・安全について科学的に理解させる」学習を展開するために必要となる事項等のうち、現代社会と健康に関する事項等とその指導法について理解を深め模擬授業やディベートを行い、授業づくりに活かせるようにする。

内容

- 第1回：学習指導要領について イン트로ダクション
- 第2回：ディベート、模擬授業についてのガイダンス
- 第3回：現職養護教諭の特別講義など（外部講師招聘）
- 第4回：ディベート 担当単元の資料作成
- 第5回：ディベート
- 第6回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備
- 第7回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備
- 第8回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備 指導案提出
- 第9回：模擬授業、レポート作成
- 第10回：模擬授業、レポート作成
- 第11回：模擬授業、レポート作成
- 第12回：模擬授業、レポート作成
- 第13回：模擬授業、レポート作成
- 第14回：模擬授業、レポート作成
- 第15回：模擬授業振り返り まとめ

評価

授業内に出題する課題や模擬授業等の評価を80点、筆記試験の得点を20点に換算し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】高等学校の保健の教科書を事前学習 指導案の作成など
- 【事後学修】模擬授業等の振り返り 改善指導案の提出など

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】配布プリント

【推薦書】授業時間内で紹介する

【参考図書】文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

科目名	保健科教育法		
担当教員名	石山 隆之、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は教員の免許状取得のための教職科目「教育課程及び指導法に関する科目」である。

科目の概要

- ・生涯を通じる健康に関する事項等に関する教育実践事例を学び、その指導法を習得する。
- ・健康と環境および傷害の防止等に関する教育実践事例を学び、その指導法を習得する。

学修目標（＝到達目標）

保健教育において「健康・安全について科学的に理解させる」学習を展開するために必要となる事項等のうち、生涯を通じる健康、社会生活と健康に関する事項とその指導法について理解を深め模擬授業やプレゼンテーションを行い、授業づくりに活かせるようにする。

内容

- 第1回：学習指導要領について イン트로ダクション
- 第2回：プレゼンテーション、模擬授業についてのガイダンス
- 第3回：応急処置、心肺蘇生法の特別講義（外部講師招聘）
- 第4回：プレゼンテーション 担当単元の資料作成
- 第5回：プレゼンテーション
- 第6回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備
- 第7回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備
- 第8回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備 指導案提出
- 第9回：模擬授業、レポート作成
- 第10回：模擬授業、レポート作成
- 第11回：模擬授業、レポート作成
- 第12回：模擬授業、レポート作成
- 第13回：模擬授業、レポート作成
- 第14回：模擬授業、レポート作成
- 第15回：模擬授業振り返り まとめ

評価

授業内に出題する課題や模擬授業等の評価を80点、筆記試験の得点を20点に換算し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】高等学校の保健の教科書を学習 指導案作り

【事後学修】模擬授業等の振り返り 改善指導案の提出

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】配布プリント

【推薦書】適宜指示する

【参考図書】文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容	
1	1 学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2 社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3 現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5 学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6 学校の全教育活動における総合的展開
7	7 学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8 「道徳の時間」の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9 学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10 学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11 これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12 「道徳の時間」の模擬授業の計画
13	13 模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14 模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15 模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は「教職に関する科目」の一つとして、学校における道徳教育を支える理論と実際について学ぶものです。養護教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状の取得を希望する者においては必修です。

講義では、道徳的価値や規範意識の低下など、現代社会の今日的状況を射程に入れながら、学校における道徳教育の位置づけと実際について学びます。

学修目標は次の三つです。 道徳教育をめぐる今日的状況を知る 学校における道徳教育の役割と実際について理解する 道徳教育の本質や理念を理解し、道徳的行為を成り立たせる心情、判断、実践意欲・態度について考察する。

内容	
1	道徳、道徳教育について
2	道徳教育と心の教育
3	学習指導要領にみる道徳教育の位置づけ、役割
4	道徳教育の充実について
5	「自己の生き方」について考えるために
6	課題発表
7	課題発表
8	道徳教育のあゆみ、「道徳の時間」の特設
9	道徳教育の今日的状況
10	道徳的心情の形成と資料について
11	道徳的心情の形成と資料について
12	道徳的判断力の形成とモラル・ジレンマ
13	道徳性の発達理論
14	道徳性の発達理論
15	まとめ

評価

試験60%、課題提出20%、課題発表20%とし、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次週に扱う箇所(授業内にて指示)について、教科書を読んでおくこと。なお、提出課題については、発表も含め、十分に準備すること。

【事後学修】文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』について、授業時に扱った箇所を熟読すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】田中智志・橋本美保監修、松下良平編著『道德教育論』一藝社、2014年

【推薦書】小笠原道雄・田代尚弘・堺正之『道德教育の可能性』福村出版、2013年

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』
文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校及び養護教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校及び養護教諭の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容		
1	特別活動の成立	近代公教育の発端と教育実践・特別活動とは何か
2	特別活動の展開	学習指導要領の変遷と教科外教育
3	特別活動の目的	学校における集団活動の教育的意義
4	特別活動の指導論	児童生徒の自主性・社会性を育てる視点
5	特別活動の教育評価論	望ましい人間関係のために
6	児童生徒の可能性をひらく学校生活づくり...学級崩壊をおこさない集団の育成	
7	学級活動の展開事例と学級活動(2)の指導案の作成	
8	自発的、自治的活動と教師	学級や学校の生活づくりの指導
9	学級の間人間関係や集団生活の形成者として	生徒指導、キャリア教育の基礎
10	社会参画につながる児童会・生徒会活動	自分らしさを創りだす力の育成
11	児童生徒の可能性をひらく学校行事の創造	教科領域を貫く教育実践の基軸
12	学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	模擬授業の実践(1) 学生の選んだ主題	
14	模擬授業の実践(2) 学生の選んだ主題	
15	模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】狩野浩二編著 『あたらしい特別活動』現場と結ぶ教職シリーズ12 あいり出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、栄養教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものである。

科目の概要

道徳教育・特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された道徳教育・特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。道徳教育・特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育・特別活動の意義や課題について考察し、その本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践する特別活動の指導のあり方について考察する。

内容

1	1. 学習指導要領における道徳教育・特別活動の位置づけ
2	2. 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育の必要性
3	3. 学校における道徳教育の基本構造、道徳教育の目標と内容 学校の社会的任務
4	4. 学校教育における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画
5	5. 道徳の時間の指導 道徳学習指導案の作成
6	6. 学校教育の今日的課題と特別活動 社会動向と学校の教育的課題
7	7. 特別活動の教育的課題 特別活動の性格、個性の育成、社会性の育成、問題解決力の伸張
8	8. 学級活動の意義と指導の実際 意義と性格、内容・方法・評価、展開事例
9	9. 学級活動(2)の展開事例と指導案の作成
10	10. 学級活動(1)と今日的課題
11	11. 児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事
12	12. 計画委員会と話し合い活動の進め方 学級活動模擬授業の進め方
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生の選んだ主題
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生の選んだ主題
15	15. 模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	生徒指導		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教育職員免許法に定められた「教科に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」として開講する。講義・演習の内容は、生徒指導が児童・生徒一人一人の個性の伸長を図るとともに、社会的資質や行動力を育成するものであること。そのため、教員として必要不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止やキャリア教育の推進、学校が組織的に児童・生徒の指導育成を進める方策などを学修する。

科目の概要

生徒指導は、学習指導とともに学校教育の重要な機能であること。そして、児童・生徒の人間性の発達を支援すること。学級集団において児童・生徒の自己肯定感や自律的に行動する資質や能力を高めること。家庭や地域社会、教育相談機関等の青少年の健全育成諸機関等との連携を図る方策など。

学修目標(= 到達目標)

児童生徒理解の方法を理解し、事例研究法により生徒指導の方策を身に付ける。児童生徒の心身の発達に係る概念や発達を促す指導方法を身に付ける。児童生徒の意識調査や「風景構成法」の援用により、児童生徒とのよい人間関係づくりや深い生徒理解に基づく指導とその方法を身に付ける。いじめや不登校、反社会的な行動の予測と対応並びに問題行動等の未然防止に係る実践的な指導力を身に付ける。キャリア教育や自己肯定感を高める指導・援助の方策を身に付ける。

内容

心豊かで、積極的に社会参加し、自己を活かしていこうとする児童・生徒を育成するためには、幼児期から児童期、青年期に至る発達段階のそれぞれの心理的特性、社会的位置、自己概念などを深く理解し、実践的な指導力を求められている。また、犯罪心理学の知見から、青少年の非行の予防等に関する知識や指導力を求められる。本講座では、問題解決討議法、役割等技法、事例研究法、シミュレーション技法等を援用し、生徒指導に係る諸課題の解決に資する知識や技能の修得と活用を行う。

1	授業の目的と内容及び評価等に関するガイダンス 生徒指導の意義と原理
2	生徒指導と人間形成 生徒指導の理念と現実(生徒指導の機能を活かす学習指導の実際)
3	生徒指導の変遷と課題 生徒指導と教育課程(学習指導案等の検討)
4	生徒指導と人間観 生徒理解とその方法(観察、面談、検査等の実際)
5	生徒指導と人間関係の構築 個別の指導と集団としての機能を高める指導
6	生徒指導と教育相談 カウンセリング・コーチング等の実際
7	学校不適応と問題行動 犯罪心理学の知見と生徒指導 自己概念の形成と生徒指導
8	不登校の発生機序と要因及び背景(事例分析) 不登校の未然防止と指導・援助の方策
9	いじめの発生機序と構造 ヴァルネラビリティやいじめの許容空間と防止
10	生徒指導の機能を活かす学級経営 生徒会活動や部活動等の指導(集団指導の実際)
11	学校経営と生徒指導の実際(組織貢献力の高湯) 懲戒の在り方と体罰の防止(事例検討)
12	健全育成のための施策の現状と課題 家庭・地場社会・関係諸機関との連携(事例検討)
13	進路指導の実際 各教科等の学習活動とキャリア教育の実際

14	事例研究1(不登校、いじめ、反社会的行動等の予防・未然防止及び問題解決)
15	事例研究2(キャリア教育、職業体験等の実際と指導)、生徒指導論の構築(小論文)

評価

事前課題報告書と各授業時の小論文(30点)、集団討議や事例研究等の成果物筆記試験(25点)、最終試験(45点)を総合し、総合評価60点以上を合格とする。なお、評価の観点や方法については、第1回目の授業及び学習内容に即して明示する。

授業外学習

【事前予習】 前時に、テキスト『生徒指導提要』等をもとに事前課題として示すので、関連する情報や学校ボランティア等で得た知見を基に事前課題報告書を作成し、授業に臨むこと。

【事後学修】 授業で行った集団討議や事例検討並びに学習内容をもとに小論文(小レポート)を作成し、提出すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『生徒指導提要~(文部科【教科書】 『生徒指導提要~(文部科学省・平成22年3月刊)

【推薦書】 嶋崎政男著『法規+教育で考える生徒指導』ぎょうせい

【参考図書】 『小学校キャリア教育の手引き』(文部科学省・平成23年3月刊)

中央教育審議会答申『次代を担う自立した青少年の育成に向けて』(平成19年1月30日)

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）／栄養教諭一種免許状／高等学校教諭一種免許状（福祉）／高等学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
- 第14回 カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%、試験による評価60%により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

〔推薦書〕

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職課程必修の教育実習事前事後指導

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標(= 到達目標)

参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。形式は、レポート50点、実習日誌50点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教育実習配当校との事前準備
- 【事後学修】教育実習配当校との事後評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子、綿引 光友		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育職員免許法に定められた「教育実習」に関する事前事後指導を行う科目です。主として、中学校や高等学校の一種免許状を取得する際に、履修します。教育実習において経験する諸活動に関する原理や原則を学びます。実習の事後においては、実習の成果を省察し、教員として最小限必要となる資質や能力が形成されたかを確認します。

科目の概要

教育実習に望むためには、学校の教員として、学校に勤務する際の基本を身につける必要があります。また、学習指導や生徒指導を展開するためには、児童生徒の実態に応じて、臨機応変にさまざまな状況に対処する力が必要です。こうした点について、教育実践記録に関する文献や映像、実際の学校教育活動の参観等を通して、学習します。

学修目標（＝到達目標）

1. 教員として最小限必要となる資質や能力のうち、教育実習に参加できるだけの力を身につける。
2. 教育実践記録に関する諸文献、諸映像、学校参観等を通して、教員として必要となる資質や能力を身につけることができる。
3. 現代の学校教育をめぐる諸課題について関心を持ち、その解決に向けて、考えをまとめたり、実行したりすることができる。

内容

以下に、この科目で取り上げる内容を列挙する（順不同）。

1. 学校教育をめぐる諸課題への理解（廣坂）
2. 教員としての表現力（狩野）
3. 教材開発・発掘（廣坂）
4. 単元の指導計画と授業の実際（廣坂）
5. 教育実践記録の読解と授業実践力の向上（狩野）
6. 教育実践映像の解釈と授業実践力の向上（狩野）
7. 教材開発・発掘による学習指導案の作成（廣坂）
8. 教材開発・発掘による模擬授業の実施（廣坂・狩野）
9. 模擬授業の省察（廣坂・狩野）
10. 学校参観（狩野）
11. 中学校における生徒の実情と教員の指導力（狩野）
12. 教育実習校訪問（狩野）
13. 教育実習の事後指導（狩野・廣坂）
14. 教育実習記録の制作（狩野）
15. まとめ（狩野）

実際の内容と事前事後指導の日程は、初回に提示する。

評価

各自の個別学修として行う文献読解等の授業外学習成果（2割）及び、事後省察結果（8割）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】使用するテキスト、プリント等を個別学修し、概要を把握し、疑問点を析出後、その内容を追究した個別学修記録を作成する。

【事後学修】授業内に学修したこと、学外での参観等の経験を省察し、事後記録を作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する。プリントを配布する。

【推薦書】学習指導要領解説編「社会」、その他授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科教育法や教職関連科目等によって修得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

(1) 教育実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

2. 事後指導

(1) 教育実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職関連科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/中学校教諭一種免許状(社会)/高等学校教諭一種免許状(公民)/高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/高等学校教諭一種免許状(福祉)/高等学校教諭一種免許状(家庭)/中学校教諭一種免許状(家庭)/高等学校教諭一種免許状(保健)/中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語科教科教育法I~IVや教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標(=到達目標)

この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への出席、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】模擬授業の教案作成・教材作成(最低2時間)
- 【事後学修】模擬授業のコメントを受け、教案を修正する(最低30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「情報科」(3 週間以上の実習期間の者を対象とする) 前期実習 (選択) である。

科目の概要

1 . 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2 . 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標 (= 到達目標)

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

内容

協力校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 教育実習の本実習を行う。中高の教員免許状を取得する場合、原則として本学が連携する六市(新座、志木、朝霞、和光、東久留米、清瀬)において教育実習を行う。本科目は、中、高の教員免許を主に取得する場合は、教育実習とともに履修し、教育実習を行うことが必要である。

科目の概要 中、高における教育実習(本実習)は、各学校の校長、副校長(教頭)、指導担当教諭の指導の下実施するが、本学における教育実習担当となる教職科目の担当教員や教科科目の担当教員の指導の下、教育実習 において事前指導を受けることになる。したがって、本実習に参画する前に教育実習 において事前指導を受け、本実習での心構え等をしっかりと学んでいることが必要である。なお、他校種の教員免許を主とする場合はこの科目は選択科目となる。

学修目標 (=到達目標) 教育実習において教科指導はもとより、学級担任として学級経営を展開する力をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各教科の授業だけでなく、各領域の授業や特別活動などにも積極的に関わることが必要である。特に、中、高では、生徒会活動や部活動が重要な指導の機会である。こうしたことにも関心を持ち、目標を持って実習に参画し、実習校での指導を受けることが肝要である。本実習においては、複数回の研究授業を自ら積極的に行い、事前の教材研究、事中の授業、事後の検討会等において、先輩方からの指導を積極的に受けるようにする必要がある。

内容

教育実習校における指導が中心であり、各学校の指示により教育実習を行う。

1. ガイダンス

各学校に大学の担当教員とともに挨拶に出向き、教育実習全般についての諸連絡、諸注意を受け、教育実習を向かえるまでに必要な準備等を整えることになる。

2. 教育実習

すべては、学校教育現場で勤務する教員と同様である。中・高教員免許状を取得する学生は、教育実習 に加えて、教育実習 の履修が必要である。他校種の免許を主とする学生は、教育実習 に加えて、本科目により、教育実習を経験する。

3. 教育実習中

教育実習の手引きを熟読し、自らすすんで実習に参加することが大事である。研究授業は、自ら進んで行い、事前研究、事中研究、事後研究等、先輩方からの指導を積極的に受けることが必要である。

4. 成績

成績は、教育実習校の評価と、大学での評価を総合する。したがって、予めどのような観点で、評価が行われるのか、自己評価をしてみるにより、教育実習に追究すべき、自己の克服課題、目標をつくっておくことが必要である。

5. 事後指導

教育実習後は、教育実習 の担当教員とともに、実習を総括し、自らの実習を省察する。履修カルテには、その概要を記しておく。

評価

教育実習校での評価(5割) 大学での評価(5割)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教育実習 で学修した内容を省察し、必要な文献を読み、概要をまとめる。教育実習校の使用教科用図書を購入し、事前学修する。

【事後学修】教育実習 での自己指導に備え、実習ノートを整理するとともに、実習の成果を省察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは教育実習校の指示により、該当する教科用図書等を手に入れておく。

【推薦書】教育実習の担当指導教員から指示を受ける。

【参考図書】同上

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科関連科目・教科教育法，教育実習 で修得したことをふまえて，教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに学修した教科，授業方法等に関する知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力をつける。学校現場での実際の勤務経験をとおして自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】 3 年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/ 中学校教諭一種免許状（社会）/ 高等学校教諭一種免許状（公民）/ 高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 高等学校教諭一種免許状（福祉）/ 高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）/ 高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）前期実習（選択）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（＝到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

内容

協力校における3週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法だけでなく、ホームルーム等を通じてクラス管理のノウハウも学ぶ。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当する授業の準備に最低2時間

【事後学修】授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備に最低2時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、必要な場合はプリントを配布する。推薦書は適宜授業中に紹介する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「情報科」(2 週間の実習期間の者を対象とする) 実習 (必修) である。

科目の概要

1 . 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2 . 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標 (= 到達目標)

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

内容

協力校における 2 週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 教育実習の本実習を行う。中高の教員免許状を取得する場合、原則として本学が連携する六市(新座、志木、朝霞、和光、東久留米、清瀬)において教育実習を行う。本科目は、中、高の教員免許を主に取得する場合は、教育実習とともに履修し、教育実習を行うことが必要である。

科目の概要 中、高における教育実習(本実習)は、各学校の校長、副校長(教頭)、指導担当教諭の指導の下実施するが、本学における教育実習担当となる教職科目の担当教員や教科科目の担当教員の指導の下、教育実習 において事前指導を受けることになる。したがって、本実習に参画する前に教育実習 において事前指導を受け、本実習での心構え等をしっかりと学んでいることが必要である。なお、他校種の教員免許を主とする場合はこの科目は必修となる。

学修目標(=到達目標) 教育実習において教科指導はもとより、学級担任として学級経営を展開する力をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各教科の授業だけでなく、各領域の授業や特別活動などにも積極的に関わることが必要である。特に、中、高では、生徒会活動や部活動が重要な指導の機会である。こうしたことにも関心を持ち、目標を持って実習に参画し、実習校での指導を受けることが肝要である。本実習においては、複数回の研究授業を自ら積極的にを行い、事前の教材研究、事中の授業、事後の検討会等において、先輩方からの指導を積極的に受けるようにする必要がある。

内容

教育実習校における指導が中心であり、各学校の指示により教育実習を行う。

中・高の教員免許を取得する場合は、この科目とともに教育実習 を履修すること。

他校種の免許を主とする場合は、この科目だけが必修となる。

1. ガイダンス

各学校に大学の担当教員とともに挨拶に出向き、教育実習全般についての諸連絡、諸注意を受け、教育実習を向かえるまでに必要な準備等を整えることになる。

2. 教育実習

すべては、学校教育現場で勤務する教員と同様である。中・高教員免許状を取得する学生は、教育実習 に加えて、教育実習 の履修が必要である。他校種の免許を主とする学生は、教育実習 に加えて、本科目により、教育実習を経験する。

3. 教育実習中

教育実習の手引きを熟読し、自らすすんで実習に参加することが大事である。研究授業は、自ら進んで行い、事前研究、事中研究、事後研究等、先輩方からの指導を積極的に受けることが必要である。

4. 成績

成績は、教育実習校の評価と、大学での評価を総合する。したがって、予めどのような観点で、評価が行われるのか、自己評価をしてみるにより、教育実習に追究すべき、自己の克服課題、目標をつくっておくことが必要である。

5. 事後指導

教育実習後は、教育実習 の担当教員とともに、実習を総括し、自らの実習を省察する。履修カルテには、その概要を記しておく。

評価

教育実習校での評価（5割）大学での評価（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教育実習 で学修した内容を省察し、必要な文献を読み、概要をまとめる。教育実習校の使用教科用図書を購入し、事前学修する。

【事後学修】教育実習 での自己指導に備え、実習ノートを整理するとともに、実習の成果を省察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは教育実習校の指示により、該当する教科用図書等を手に入れておく。

【推薦書】教育実習の担当指導教員から指示を受ける。

【参考図書】同上

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科関連科目，教科教育法，教育実習 ， で修得したことを踏まえて，教育実習で では実際に授業を担当する。これまでに学修した知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力ををつける。さらに学校現場での実際の勤務経験を通して自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における 2 週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】 3 年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語教科教育法I～IV・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）前期実習（選択）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当する授業の準備に最低2時間

【事後学修】授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備に最低2時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、必要な場合はプリントを配布する。推薦書は適宜授業中に紹介する。とし、総合評価60点以上を合格とする。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	向後 朋美、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教職生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

(i)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項，(ii)社会性や対人間関係能力に関する事項，(iii)生徒理解や学級経営に関する事項，(iv)教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（＝到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像から見た望ましい学級経営案の検討（グループ討議・イベント企画）
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解（グループ調査演習・ロールプレイ）
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

評価

評価 レポート課題（3回程度），プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教員生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

教員として 1) 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 2) 社会性や対人間関係能力に関する事項 3) 生徒理解や学級経営に関する事項 4) 教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（=到達目標）

将来教員になる上で、必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション これまでの教職課程の振り返り
2	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（レポート）
3	教育に関する問題点・自らの課題を発表する（プレゼンテーション）
4	教育に関する問題点・解決策を討議する（討議）
5	生徒の生活環境・教育環境を知る（現地調査）
6	生徒指導に関わる現代的な課題の理解と対応（発表 討議）
7	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義 討議）
8	教育実習の振り返りと教科の評価を考える（講義 討議）
9	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（教職経験者による講義）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（現地調査）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	成果の発表 まとめ

評価

レポート課題、プレゼンテーション、討議における貢献度を総合的に評価して、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーション、模擬授業に必要な資料の準備をする

【事後学修】学修した内容を、学校現場でいかせるようにまとめをする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

適宜指示する。

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	養護実習		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。連携の方法や必要性を再確認させる。

内容

1．事前指導

(1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

(4) ロールプレイングによる模擬演習

2．事後指導

(1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の学修を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：「学校保健実務必携」（学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規）

科目名	養護実習		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。 児童生徒への指導の体験。 事後措置の方法の体験。 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	岩井 雄一、星野 祐子、坂口 智、狩野 浩二 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職課程の総仕上げとして行われる授業です。学生のみなさんが教職に関する科目、教科に関する科目、教育実習、その他で学んだ学修内容を統合して、それぞれが教員として最小限必要となる資質や能力を身につけたかどうかを確認し、不足しているところがあれば、それを補う勉強をします。

履修カルテに基づいて、学生のみなさんと個人面談を行います。その上で、どのような資質や能力が形成されてきたか、不足している資質や能力はどのようなものかを確認し、その不足した資質や能力を補うような勉強を行います。内容によっては、講義や講演を聴いたり、近隣の学校での研究会に参加したり、模擬授業や教材研究を行うこともあります。学生のみなさんひとりひとりに対応した演習を実施します。

教員として最小限必要となる資質や能力を身につけることが目標です。

内容

1	オリエンテーション，これまでの教職課程を振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ（レポート）

評価

演習・実習への参加態度（4割）、教職履修カルテ（4割）、講義時間中のミニレポート（2割）を総合的に評価して、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参照し、事前に該当部分について報告や問題提議をする準備をしておく。

【事後学修】グループ討議や演習等の内容について取りまとめをし、教師としての自分の適性を考える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて随時紹介します。

科目名	教職実践演習（養護教諭）		
担当教員名	綿井 雅康、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

教職課程（養護教諭）の教職に関する科目での必修科目であり、養護実習を終えたことを前提として履修し学習する科目である。

科目の概要

教員として、使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人間関係能力に関する事項、生徒理解や学校・学級経営に関する事項、養護教諭としての指導力に関する事項で構成する。また、教職・養護に関する科目を担当する教員が連携して、学生の補完すべき課題の様相や養護教諭としての実践力向上への取り組みについて共通理解と情報共有を図りつつ、指導を行う。

学修目標

教職課程での学びの集大成として、受講生の履修履歴に基づき、教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、養護教諭としての実践力向上に必要な演習を行う。

内容

第1回：オリエンテーション，これまでの教職課程を振り返る（講義，全体討議）

第2回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
（教職勤務経験者による講義）

第3回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）

第4回：教育に関する問題点をふまえ自らの課題を発見する（現地調査）

第5回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）

第6回：児童生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）

第7回：生徒指導に関わる生活環境・社会状況に関する現代的課題の理解
（グループ調査演習、事例研究）

第8回：児童生徒の現代的な健康課題の理解とその解決への取り組みの検討
（グループ調査演習、事例研究）

第9回：保健室経営計画に関する講義と演習（講義と演習、全体・グループ）

第10回：現代的な健康課題を踏まえた保健室経営計画案の検討（演習・討議、ロールプレイ）

第11回：教育実習の振り返りと養護教諭としての指導力・実践力を考える（講義，グループ討議）

第12回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）

第13回：模擬授業、模擬場面指導

第14回：模擬授業、模擬場面指導

第15回：成果の発表（発表、全体）

評価

演習での学習活動及び提出物により評価を行う。評価の基準は、各自が設定した課題に対する取り組み状況とその成果が、

現場の実情に即して資質の向上につながっているという点である。

授業外学習

【事前予習】課題指示に沿って自らの学びや体験を客観的に整理すること

【事後学修】学修した内容を、学校現場でどのように実践するのかを考える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	教育実践論		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は中学校教諭一種免許状（英語）取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

科目の概要

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

学修目標

(i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
(ii)配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

2.介護等体験

3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

(1) 授業への参加度 50%，(2) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価 50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】手引きの内容についてよく読んでおくこと。

【事後学修】実習後の振り返りをすぐにしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育実践論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

科目の概要

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

学修目標（＝到達目標）

- (i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
- (ii)配当先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1.事前指導

- (1)社会福祉教育について
- (2)対人援助について
- (3)介護等体験の目的について
- (4)介護等体験における心構え
- (5)自己目標をたてる
- (6)社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7)特殊教育と障害児者について
- (8)配属先施設についての自己学習
- (9)社会福祉施設の専門職について
- (10)社会福祉従事者の基本姿勢
- (11)コミュニケーション理解
- (12)車椅子、食事介助、移乗等体験

2.介護等体験

3.事後指導

- (1)介護等体験における個別振り返り
- (2)介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 授業への参加度 50%
- (3) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育実践論		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は中学校教諭一種免許状取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

- （i）介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
- （ii）配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。（iii）事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1. 事前指導

- （1）社会福祉教育について
- （2）対人援助について
- （3）介護等体験の目的について
- （4）介護等体験における心構え
- （5）自己目標をたてる
- （6）社会福祉施設と福祉サービスについて
- （7）特殊教育と障害児者について
- （8）配属先施設についての自己学習
- （9）社会福祉施設の専門職について
- （10）社会福祉従事者の基本姿勢
- （11）コミュニケーション理解
- （12）車椅子、食事介助、移乗等体験

2. 介護等体験

3. 事後指導

- （1）介護等体験における個別振り返り
- （2）介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

次の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- （1）授業への参加度 50%
- （2）介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

授業外学習

【事前予習】実習施設に関する概要を理解しておく、さらに社会福祉に対する理解も深める

【事後学修】表面的な体験や観察だけではなく、支援することの意味や意義について考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	被服学		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人は他の動物と異なり衣をまとふ動物である。その意味で被服学を学問として学ぶということは、人間としてのありようをも考えることに繋がる。被服学では、被服の起源、被服の役割、被服の素材、被服のデザイン・構成、被服の着装、被服の取り扱い、被服の消費と環境、高齢者・障害者の被服などについて認識を深め、より良い衣生活が営めるよう、総合的な視点と思考力を養う。授業形態は、講義を中心とするが視聴覚機器や標本などを活用して現実の生活を想起させ、興味・関心を深めていく。

学修目標は次の通りである。

被服学の基礎的な知識と理論が理解できたか。

被服学を学ぶ方法論が身についたか。

教職の現場において生徒にわかりやすく指導することのできる力がついたか。

内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	被服の起源と役割
3	被服の種類
4	被服の素材
5	被服の取り扱い
6	人体形態の把握と既製服サイズシステム
7	アパレル産業 1
8	アパレル産業 2
9	被服のデザイン・構成・色彩
10	被服の着装
11	帽子や履き物について
12	高齢者の被服
13	障害者の被服
14	被服の消費と環境
15	まとめ

評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】衣生活についてニュース・新聞・インターネットなどから情報を集め視野を広げる。

【事後学修】資料を精読しまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	被服製作実習		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

家庭が教育において生活の諸相である基礎・基本を学ぶことは、成長・発達する子どもたちに不可欠な学習となる。本科目では被服のもつ機能性や個性を生かす色・柄・デザインについて理解を深めるとともに、基本的な知識を身につけ、手縫い・ミシン縫い、用具の取り扱い方法、作品の製作方法や手順などについての技術・技能を養う。これらを通して人間としての生活のありように迫る。各自の技術・技能の習得については、練習を繰り返し行い、しっかりと身につけることを目標とする。授業形態は標本を用い、師範しながら進めていく。

学修目標は次の通りである。

被服製作実習の授業を通して、実習に必要な用具やそれらの取り扱い方法、基礎的な知識・技術、作品の製作方法、実習授業の計画手順などが身についたか。

教職の現場において、生徒にわかりやすく指導することのできる力がついたか。

内容	
1	ガイダンス（科目の学ぶ方とその視点）
2	被服製作実習に必要な用具とその使用方法
3	布地の種類と用途
4	手縫い基礎1 [玉結び 玉どめ 並み縫い ぐし縫い]
5	手縫い基礎2 [本返し縫い 半返し縫い しつけのかけ方]
6	手縫い基礎3 [普通まつり 流しまつり 縦まつり]
7	手縫い基礎4 [ボタンつけ スナップつけ]
8	ミシン縫い基礎1 [ミシンの使用方法 直線縫い 二度縫い 返し縫い 曲線を縫う]
9	ミシン縫い基礎2 [ジグザグミシン 端ミシン 三つ折り縫い]
10	ミシン縫い基礎3 [折り伏せ縫い ロックミシン]
11	応用作品の製作1
12	応用作品の製作2
13	応用作品の際策3
14	応用作品の際策4
15	まとめ [応用作品の展示と評価および感想]

評価

平常点50%、各時間の課題および応用作品と作品製作レポートの提出50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】ファッションや被服の構成について興味・関心を深め視野を広げる。さらに、いろいろな作品が製作するうえでどのように構成されているのか、考える力を日頃から身につける。

【事後学修】技術・技能の習得は、練習を繰り返し行いしっかりと身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	栄養学概論		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、中学校教諭一種免許状（家庭）および高等学校教諭一種免許状（家庭）の教科に関する科目・食物学の必修科目に位置づけられている。

この授業では栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と消化・吸収・代謝、生理機能について学修します。さらに、各ライフステージの身体状況に応じた栄養の基本的考え方を学修します。健康の保持・増進と疾病予防における栄養の役割を学び、適切な食生活の理解を深めます。

学修目標は1. 栄養素の性質や機能に関する基礎知識を修得する、2. 各ライフステージにおける心身の健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のあり方を理解することができる、3. 健康の保持・増進と疾病の一次予防における食の重要性を理解することができる、の3点です。

内容	
1	栄養の概念・栄養と健康
2	栄養素の消化・吸収
3	糖質の栄養
4	タンパク質の栄養
5	脂質の栄養
6	ビタミンの栄養
7	ミネラルの栄養
8	水・電解質の栄養的意義
9	妊娠期・授乳期の栄養
10	乳児期の栄養
11	幼児期の栄養
12	学童期・思春期の栄養
13	成人期・更年期の栄養
14	高齢期の栄養
15	まとめ

評価

小テスト・レポート（30%）、定期試験（60%）、授業態度（10%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】事前に教科書を読み、授業内容を把握してください。日頃から食に関心をもって生活してください。

【事後学修】教科書や授業で配布したプリントをもとに、ノートをまとめましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小林修平 編著「健康づくりの栄養学」第2版 建帛社

科目名	食品学		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、中学校教諭一種免許状（家庭）および高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するにあたって、「教科に関する科目」に指定する科目のうち、食物学区分のなかの必修科目の一つとなっている。

科目の概要

食品を構成する水、タンパク質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミン類について基本的な知識を学ぶ。ついで、身近な植物性および動物性食品素材に特徴的な成分と、それらのもつ特性について学ぶ。これらの知識から、人類が自然界のものを、いかに巧妙に食品として利用し、成長と健康の維持・増進に役立ててきたかを理解する。

学修目標（＝達成目標）

1. 食品成分とそれらの特性に関する基本的知識を習得する。
2. 主要な食材の特徴、加工特性および利用法を理解する。
3. 日々の食事や食に関連する社会問題にも関心をもち、成長と健康の維持・増進のため、食品を有意義に利用する姿勢を培う。

内容

1	人間と食品
2	食品・食品成分の種類と分類
3	食品の水
4	食品のアミノ酸・タンパク質
5	食品の脂質
6	食品の炭水化物
7	食品中の無機質・ビタミン
8	食品の加工・保存（概論）
9	農産物の科学と利用（1）穀類、いも類、豆類
10	農産物の科学と利用（2）野菜類、果実類、その他
11	畜産物の科学と利用（1）乳類、卵類
12	畜産物の科学と利用（2）食肉類
13	水産物の科学と利用
14	調味料・香辛料、嗜好飲料等の科学
15	まとめ

評価

質疑応答を含む授業への取り組み15%、中間試験2回計25%および総合試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業フォルダにあらかじめ入れられたスライドファイルを参考に、該当する範囲について教科書を読んでおく。30分以上を目安とする。

【事後学修】スライド解説、教科書の記述および授業内での質疑応答を総合して自分なりのノートを整理する。45分程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】久保田紀久枝著『食品学（第2版補訂）』東京化学同人

【教科書】新しい食生活を考える会編著『食品解説つき新ビジュアル食品成分表 新訂版』大修館書店

科目名	基礎調理学（実習を含む）		
担当教員名	木村 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日常的に利用されている食品をおいしく安全に調理するために、食品の特性や調理のプロセスでみられる食品の変化、調理操作の意味について科学的に理解することを目的とする。

科目の概要

人は毎日、様々な食品を調理・加工し、おいしく安全に食べることにより、心身の健康を維持し、社会的な活動を行っている。この科目は、日常的に利用されている食品をおいしく安全に調理する方法についての基礎的な知識を学ぶために、毎回異なる食品をとりあげ、食品の特性や調理の過程で見られる食品の変化や行われている調理操作の目的と意義について解説する。さらに、基礎的知識の確実な習得のために調理実習を数回行う。

学修目標（＝到達目標）

1. 食品材料や調理操作の基礎的知識を理解する。
2. 調理による食品の科学的な変化について学び、食品をおいしく調理するための方向性を理解する。
3. 食事設計の意義と献立作成の基本を理解する。

内容

1	調理学の意義、食事設計(献立作成)
2	食物の嗜好性(食物のおいしさの要因と評価)
3	調理操作の特性(加熱調理操作、非加熱調理操作)
4	食品素材と調理特性(米、小麦)
5	食品素材と調理特性(いも、豆、野菜)
6	食品素材と調理特性(肉・魚介)
7	調理実習：白飯、みそ汁、魚のてりやき、和え物
8	調理実習：パン、スープ、ハンバーグステーキなど
9	食品素材と調理特性(卵)
10	食品素材と調理特性(乳・乳製品、油脂)
11	食品素材と調理特性(果実、藻類、ゲル化剤)
12	調理実習：炊き込みご飯、茶碗蒸し、筑前煮
13	調理実習：マカロニグラタン、サラダ、コーヒー
14	調理実習：白飯、麻婆豆腐、凉拌茄子、?豆腐
15	まとめ

評価

ペーパーテスト60点、レポート30点、授業への参加度10点で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書をよく読み、解らない点は参考書などで自分なりに調べる。

【事後学修】授業を聞きながら記録したノートと教科書、プリントなどをもとに復習し理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

畑江敬子・香西みどり編『スタンダード栄養・食物シリーズ6 / 調理学 第2版』 東京化学同人

【参考図書】

金谷昭子編著 『食べ物と健康 調理学』 医歯薬出版

安原安代・柳沢幸江共編『調理学 健康・栄養・調理』アイ・ケイコーポレーション

科目名	住居学（製図を含む）		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

講義科目であるが設計の基本も学ぶ。

科目の概要

住まいが、第一に、生活の根拠地であること、第二に、地域文化や自然環境と密接な関係があること、第三に、土地とつながる基礎的な社会的資本であること、第四に、歴史的、生活史的な展開と関連していること、第五に、社会の変化と関連していること、などを学ぶ。これらをもとに現代における住まいのあり方を考究する。合わせて、住まい、住環境の具体的な提案を行う。

講義では毎回、資料を配布し、パワーポイント、DVDなど視覚映像教材を用いてその解説を行う。また後半ではスケッチなどの手法により住宅設計も行う。

学修目標（＝到達目標）

住居や住環境について幅広い知識を学び、今後の住まいについても提案する。

内容	
1	現代の生活環境
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	自然環境と住居
4	生活の根拠地としての住居
5	世界の住居
6	都市住宅の展開
7	住宅の歴史（日本）
8	住宅の歴史（欧米）
9	住宅政策（日本）
10	住宅政策（欧米）
11	住宅計画（基礎）
12	住宅計画（応用）
13	住宅、および住環境の提案（含む製図）
14	住宅、および住環境の設計（含む製図）
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・態度30点、及び随時の課題やレポートによる評価70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布した資料を読み、疑問点を整理しておく。

【事後学修】授業で配布した資料を熟読し、内容の理解を深めるように努める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料等を用意するので、特にテキストは特定しないが、参考書等は授業の際に紹介する。

科目名	家庭電気・機械		
担当教員名	松尾 政弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

高等学校教諭一種免許状「家庭」を取得するために必要な「教科に関する科目」の必修科目である。

科目の概要

家庭電気・機械の内容を基礎編と応用編に分けその基礎がどのように生活機器に応用されているかを理解させる。その中で熱・光・動力の特性に生活の場で使用するために衣・食・住に使用される機器類は各種エネルギー変換や材料・形状変換を行って生活機器類が作られているかを解説する。また、これらの機器にはエレクトロニクスやコンピュータが近年急速に普及している現状がありこれらの情報機器の賢い活用についても理解させる。さらに家庭用機器の整備と危害防止についても製造物責任法の施行や電気事業法の改正について述べ、生活機器関連法規も解説する。

学修目標（＝到達目標）

家庭生活の中で使用されている家庭機械・電気、情報機器に関する基礎的な知識と技術を理解するとともに家庭生活をよりよくしようとする能力を高めるとともに家庭用機器の整備と安全と環境についても理解と学習をさせる。

内容	
1	機構 1（機素と番い、運動の伝達、ころがり接触、歯車：歯車の種類）
2	機構 2（歯車：各種の歯車・歯車列・差動歯車、カム）
3	機構 3（ベルト伝達、索電動および鎖電動、リンク仕掛け）
4	機構 4（裁縫ミシン）
5	電気 1（電気理論）
6	電気 2（電気の応用と実践）
7	製図 1（製図用具と使い方、製図の描き方）
8	製図 2（スケッチ、被服製図、写真図）
9	工作法 1（工具：切削理論、一般工具）
10	工作法 2（工具：金工用工具、木工用工具）
11	工作法 3（工具：機械用工具）
12	工作法 4（加工作業：工作理論、木材接合法）
13	工作法 5（加工作業：紙・ゴム・セルロイドの接合、金属接合法、塗装法）
14	情報社会と家庭電気・機械について
15	まとめ

評価

平常点・授業への取り組み30%、期末試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】家庭内にある身近な機器等の役割やしくみを学ぶことを踏まえ、情報の収集等しておくこと。

【事後学修】授業の際に配布したプリント等を活用して復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

科目名	日本史概説		
担当教員名	伊藤 瑠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

おもに社会科関連教職免許状取得希望者を対象として、人類の誕生～第二次世界大戦までの日本史を学びます。

科目の概要

文部科学省検定済教科書は、基本的に4年ごとに改定され、そのつど新しい研究成果を取り入れて書き換えられています。本科目では、中学校・高校教科書をベースに、記述内容が変化した点や近年研究が進んでいる点を中心に取り上げ、変化の背景を学んでいきます。

学修目標（＝到達目標）

歴史の流れと各時代の特徴を理解すること、教科書の記述内容の背景を自分なりに説明できるようになること、が目標です。教科書は研究の進展によって変化していくものだということを理解し、皆さんが教壇に立った時に柔軟に対応できるようになることを目指します。

内容

1	人類の誕生と石器時代
2	縄文時代～弥生時代
3	大和政権～律令国家の成立
4	荘園制の成立と武士の登場
5	鎌倉幕府の成立
6	鎌倉時代～モンゴル襲来
7	倭寇と鉄砲伝来
8	戦国社会と天下統一
9	江戸時代の村と百姓
10	江戸時代の身分秩序と被差別民
11	「鎖国」から開国へ
12	近代国民国家の形成
13	近代国民国家の展開
14	二度の世界大戦
15	まとめ

評価

平常点28点、小テスト・小レポート20点、試験52点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】皆さんの使った中学校教科書を復習しておく。

【事後学修】授業で使ったプリントを見直す。わからなかった部分は、次の授業時に質問すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業内でプリントを配布する。

【推薦書】山本博文ほか『こんなに変わった歴史教科書』（新潮社、2012年）

村岡薫・戸川点・樋口州男・野口華世・武井弘一・藤木正史編『史料が語る新事実 書き換えられる日本史』

（小径社、2011年）

【参考図書】

科目名	世界史概説		
担当教員名	長谷川 宜之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (社会)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は、中学校社会科教員免許取得のための必修科目であり、「教科に関する科目」の科目区分「日本史及び外国史」に位置づけられる科目である。教科としての社会科を構成する学問領域は幅広く多様であるが、免許法施行規則上の科目区分においては、「地理学」「法律学/政治学」「社会学/経済学」「哲学/倫理学/宗教学」に位置づけられる科目が、当該授業科目と関連する科目として挙げられる。

科目の概要：本科目では、主として「前近代世界」を、「ヨーロッパ」を主たる事例として概観した後、近代移行期、いわゆる「近世社会」の性格について検討し、最終的に「近代国家システム」の歴史的特質とその課題について解説する。具体的には、

- 1) 裁判や租税など、近代国家を支える様々なシステムの形成が歴史における必然ではなかったことについて理解を深める。
- 2) ヨーロッパあるいはアジア世界における、権力秩序の編成原理に関わる豊富な事例を、比較史の視点から紹介することで、現代とは異なる、しかし活力を持った様々な前近代社会についての具体的なイメージを得る。

学修目標： 現代社会が直面する様々な課題について、歴史的に考察する能力を身につける。

内容

第1回：イントロダクション

第2回：[思想]：宗教と社会 : 教会とは何か ヨーロッパ・アジア・イスラーム

第3回：[思想]宗教と社会 : 正統と異端

第4回：[法]紛争と裁き : 自力救済と和解

第5回：[法]紛争と裁き : 近代的訴訟システムの形成

第6回：[財政]富と税金 : 前近代社会における賦課

第7回：[財政]富と税金 : 租税制度の確立

第8回：[国家]アイデンティティと国家 : 「歴史」の誕生

第9回：[国家]アイデンティティと国家 : ナショナリズムの時代

第10回：[文化]文化とその担い手 : 職人から芸術家へ

第11回：[文化]文化とその担い手 : パトロン=システムと国家的庇護

第12回：[経済]流通と市場 : 近代以前のグローバリゼーション

第13回：[経済]流通と市場 : 貨幣・商品・関税

第14回：前近代世界から近代的世界へ

第15回：まとめ

評価

試験(30%)、授業への取り組み及び授業ごとに提出を求めるコメントの記述内容など、授業への参加度(70%)を総合的に評価し、60%以上の評価を得たものを合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回の授業テーマについて調べ、疑問点を2点あげておく。

【事後学修】授業で気づいたこと、疑問点に感じたことを自分なりにさらに調べる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『中世世界とは何か』『儀礼と象徴の中世』(ともに岩波書店)が主要参考文献である。その他の参考文献等については、授業中に適宜指示する。

科目名	地理学概説		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は生活情報学科の2・3年の学生を対象とした教職課程科目の一つに位置付けられた前期に開講される2単位の必修科目である。教職課程の各科目、特に社会科教育法 ・ との関連性を踏まえて学修を進めることが必要である。

科目の概要

中学校や高等学校の学習指導要領を踏まえ、中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項を系統地理的考察と地誌的考察をとおして把握する。講義の1～5では地理学や学習指導要領における地理学習の内容を把握し、6～10では地理的事象を系統地理的に考察し、10～14では地誌的に考察を行う。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項や内容を把握する。
- ・ 中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学習の内容の理解を深める。
- ・ 地理学の各分野の内容を踏まえた指導方法や教材開発などを考察し、授業の実践的な指導力や授業力を育成する。

内容

1	「地理学」（地誌を含む）ガイダンス ・ 調査研究課題の検討
2	地理学の学問体系とその構成 ・ 調査研究課題の決定
3	学習指導要領（中学校社会科・高等学校地理歴史科）に示された教科の構造と地理学習
4	中学校社会科における地理的分野の学習内容と方法等
5	高等学校地理歴史科における地理学習の内容と方法等 ・ 調査研究の成果の発表と討論
6	世界の自然環境（1）世界の大地形
7	世界の自然環境（2）世界の気候と気候区分
8	世界の資源と産業（1）世界の農牧業
9	世界の資源と産業（2）世界の鉱工業
10	世界の都市と村落 ・ 調査研究の成果の発表と討論
11	現代世界の地誌（1）アジアの世界
12	現代世界の地誌（2）ヨーロッパの世界
13	現代世界の地誌（3）南北アメリカの世界
14	現代世界の地誌（4）アフリカとオセアニアの世界
15	まとめ（調査研究の発表討論のまとめも含む）

評価

小テストを含めた試験（60％）・発表及びレポート（30％）・作業プリント提出物（10％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかつた場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】 学習指導要領を一読し、特に中学校「社会」(第2章第2節)と高等学校「地理歴史」(第2章第2節)は精読し概要を把握しておく。 今までに使用した教科書や地図帳等を準備し復習しておく。

【事後学修】 授業展開に必要な基礎的事項を把握し、内容の理解が深められたか振り返る。 学修内容を踏まえた指導方法や教材開発等を工夫し、社会科教育法や教育実習に生かせるようにすること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 地図帳(高等学校などで使用したものがあればそれでも可)

授業の際に配布されるプリント

【推薦書】 中学校学習指導要領解説 社会編(文部科学省)175円+税

高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(文部科学省)410円+税

【参考図書】 日本国勢図会2014/15・世界国勢図会2014/15

(共に公益財団法人 矢野恒太記念会編集) 各2685円+税

科目名	地誌学概説		
担当教員名	田村 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

中学校教諭（社会）普通免許状の取得に必要な「地理学（地誌を含む）」の科目。

日本及び世界の諸地域の特色ある地域的事象を中核として、それを歴史的背景や他の事象と有機的に関連づけて動的にとらえるため、日本及び世界の諸地域の地域的特色と今後の動向に関する多面的・多角的な考察を行う。

日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って日本の国土や世界の諸地域の地域的特色を歴史的背景や環境条件、人間の営みなどと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察・理解し、地理的な見方や考え方の基礎を培い、動態地誌のアプローチに基づく日本の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。

内容

1	地理学入門
2	地誌学とは何か
3	学習指導要領の改訂と動態地誌
4	動態地誌のアプローチと地域認識
5	動態地誌のアプローチと身近な生活領域
6	世界の諸地域（アジア）
7	世界の諸地域（ヨーロッパ）
8	世界の諸地域（アフリカ）
9	世界の諸地域（北米・中米・南米）
10	日本の諸地域（九州・四国・中国）
11	日本の諸地域（近畿・東海・北陸・甲信越）
12	日本の諸地域（関東・東北・北海道）
13	主題図の作成と地図表現（（1））
14	主題図の作成と地図表現（（2））
15	地域調査法について

評価

小レポート（30%）と期末試験（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前学習】地図の収集と判読、関連する資料（新聞記事や画像など）の収集・整理を依頼することがあります。

【事後学習】地図及び資料の再整理や、実地のフィールドワークを実施することがあります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に必要に応じて推薦・紹介します。

科目名	哲学概説		
担当教員名	田子山 和歌子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教員免許法施行規則に定める、中学1種「社会」・高校1種「公民」の「教科に関する科目」中の2単位分（選択科目）に対応する。教職課程のみの特設科目である。

科目の概要

本科目では、高等学校公民科「倫理」・「現代社会」の指導に必要な、思想史の通史を学ぶとともに、高等学校公民科「倫理」の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。

学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 高等学校公民科「倫理」の構成内容を理解する。 「倫理」の授業展開のための指導案を作成できるようになる。 「倫理」の実際の授業を行う技能を身につけることができる。

内容	
1	高等学校公民科「倫理」における「先哲学習」の位置づけについて
2	古代ギリシアの思想 初期キリスト教の成立と展開
3	初期イスラム教の成立と展開
4	初期仏教の成立と展開
5	奈良時代における仏教受容 平安仏教と鎌倉仏教
6	諸子百家の思想 朱子学と陽明学
7	日本における朱子学の受容と封建教学の形成
8	イギリス経験論と大陸合理論
9	ドイツ観念論哲学
10	功利主義と実存主義
11	近代日本における西洋思想の受容
12	「倫理」指導案の作成
13	先哲学習における資料活用の方法
14	模擬授業の実施
15	模擬授業の実施をうけた授業分析

評価

平常点50：指導案作成および模擬授業50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】事前に配布された参考資料（プリント）はかならず目を通しておいてください。

【事後学修】学習の定着のために、事後に参考資料（プリント）は見直してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』、「倫理」・「現代社会」の検定済み教科書をテキストとして使用するが、これらについては各授業でプリントを配布する。

【参考図書】授業中に適宜指示するか、参考資料としてプリントを配布する。

科目名	倫理学概説		
担当教員名	田子山 和歌子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1) 科目の性格 哲学史（哲学の歴史）を自分でもう一度＜書き直す＞ユニークな授業です。
- 2) 科目の概要 西洋哲学史について書かれた複数の高校倫理の教科書を、2,3人のスモールグループで読みくらべ、それぞれの教科書でどのような理解が目指されているかを話し合います。次に、哲学者自身の手による哲学的著作（テキスト）を実際読み、教科書群で語られた内容と比較します。こうした比較作業から、どのような哲学史理解が得られるかをグループで話し合います。場合によっては、教科書の記述をこんな風に書き直したほうがよりわかりやすいのではないかと、という発見も生まれてくるでしょう。このように教科書を、従来のような受け身で学ぶのではなく、より積極的に、教科書を時としてより学びやすいものとして書き直すことを意識的に行っていきます。
- 3) 学修目標 哲学史の学習は、しばしば受動的なものとしてとらえがちです。しかし、哲学史の教科書を複数比較すると、同一事項に関しても、様々な記述がなされていることに気づかされます。こうした比較を通して、哲学史を客観的に見る練習をしたいと思います。また、教科書の比較をたたき台にすることで、一見難しいように思われる哲学者の書いた著作にも、興味を持って接することができます。できるだけ、哲学を身近に感じるようにできることが、この授業の目標です。

内容

1	ガイダンス
2	実際に哲学の教科書を読んでみる。デカルト1
3	デカルト2
4	スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ1
5	スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ2
6	ギリシャ哲学1
7	ギリシャ哲学2
8	ギリシャ哲学3
9	キリスト教、ユダヤ教1
10	キリスト教、ユダヤ教2
11	キリスト教、ユダヤ教3
12	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス1
13	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス2
14	近代から現代へ
15	総括

評価

平常点を50点、期末試験を50点、計100点として、評価を行う。

授業外学習

【事前予習】事前に配布した参考資料（プリント）に必ず目を通しておいてください。

【事後学修】学習定着のため、事後に再度プリントを見直してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：資料プリントを授業中に配布。

参考資料：授業中に適宜指示。

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	松葉 剛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

養護教諭免許取得のための必須科目として「解剖生理学」を広く標準的に学習した後に本科目を履修し、養護教諭が必要とする専門知識としての病態生理学について理解する。

科目の概要

学校の健康診断に関わる疾患、学校感染症、アレルギー性疾患や、小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

学校健診に関わる疾患の検査法と病態について理解する。

学校感染症の種類と症状、病態および法令について理解する。

小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について理解する。

内容	
1	学校定期健診の検査・診察方法と疾患1（身長・体重、栄養状態、体格）
2	学校定期健診の検査・診察方法と疾患2（視力、色覚、眼、聴力、耳鼻咽喉頭、皮膚、歯）
3	学校定期健診の検査・診察方法と疾患3（結核、心臓、尿、寄生虫卵、その他）
4	学校感染症とその他の感染症
5	学童・思春期に罹患する疾患1 免疫、アレルギー、膠原病
6	学童・思春期に罹患する疾患2 循環器疾患
7	学童・思春期に罹患する疾患3 腎・尿路系疾患
8	学童・思春期に罹患する疾患4 消化器疾患
9	学童・思春期に罹患する疾患5 血液・腫瘍疾患
10	学童・思春期に罹患する疾患6 神経・筋・精神疾患
11	その他の小児の疾患1 新生児疾患
12	その他の小児の疾患2 遺伝性疾患・染色体異常
13	その他の小児の疾患3 代謝・内分泌疾患
14	その他の小児の疾患4 救急疾患
15	まとめ

評価

最終講義の際に筆記試験（80点満点）を実施し、講義への参加状況の評価（20点満点）を加え、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】解剖生理学で学んだ各臓器の形態や機能について確認しておくこと。

【事後学修】講義でとりあげた各疾患について、病態生理を理解すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ナーシング・グラフィカ 小児看護学 小児の疾患と看護 中村友彦・編 MCメディカ出版

【推薦書】看護のための最新医学講座 第14巻 新生児・小児科疾患 監修 日野原重明 中山書店

【参考図書】養護教諭講座/10 解剖学 生理学 監修 杉浦守那 著 杉浦正輝 東山書房

科目名	児童生徒の精神保健		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

養護教諭1種免許取得のための科目である。「精神保健」の科目区分にあり、「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

児童生徒を対象としたこころのケアについて学ぶ。その際に、発達の視点を踏まえたうえでの児童生徒の問題行動・こころの病理についての理解は不可欠である。したがって、本講義では養護教員としての関わりを行うための、基礎的な知識を学び、児童生徒のケアがいかにしてなされるのかについて考えていく

学修目標（=到達目標）

- ・児童期・青年期に生じる臨床的な問題について理解する。
- ・養護教諭としての関わり方を理解する。

内容	
1	イントロダクション 子供と関わる
2	発達1 乳幼児の発達
3	発達2 母親の役割
4	発達3 学童期の発達
5	非行
6	心因性的問題
7	不登校
8	自閉症
9	学習障害とADHD
10	虐待
11	アセスメント こころを見る方法
12	ケアするための転移論
13	環境を調整する
14	スクールカウンセラーについて
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】適宜指示する

【参考図書】適宜指示する

科目名	食生活論		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、中学校および高等学校の家庭の教員免許状取得のための選択科目である。

科目の概要

現代社会では、健康・食事に対する考え方や価値観は多様化し、テレビや新聞、雑誌などは健康や栄養、料理、健康食品などに関する情報を競って提供している。その一方では、生活習慣が原因と考えられる疾病の罹患者の増加が問題となっている。そこで、社会の仕組みとの関わりの中で、健康の保持増進を図るための食生活はいかにあるべきかを考える。食生活の在り方を規定している要因や食生活の現状と問題点、食と健康、ライフサイクルと食生活等について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 食生活の構造を理解し、現代における食生活の課題を説明できる。
2. 食べ物と栄養を理解し、バランスのよい食事を提案できる。
3. ライフサイクルに適した食生活を説明できる。
4. 現代の食生活環境を理解し、今後の食生活のあり方を考えることができる。

内容

1	食生活の構造と食生活に影響を与える要因、食生活の変遷
2	食生活の現状と課題
3	食生活と健康
4	食べ物のおいしさと健康
5	食の機能と役割 (1) 主食、主菜の食べ物と栄養
6	食の機能と役割 (2) 副菜の食べ物と栄養
7	食の機能と役割 (3) 食事のバランスと評価
8	ライフサイクルと食生活 (1) 乳幼児期、幼児期の栄養と食生活
9	ライフサイクルと食生活 (2) 学童期、思春期の栄養と食生活
10	ライフサイクルと食生活 (3) 成人期、母性の栄養と食生活
11	ライフサイクルと食生活 (4) 高齢期の栄養と食生活
12	生体リズムと食生活
13	食生活と環境
14	これからの食生活
15	まとめ

評価

授業への参加度 (10%)、レポート (40%)、筆記試験 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む(20分)。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめ復習する(40分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】加藤秀夫, 三好康之, 他編『まるごと学ぶ食生活と健康づくり』 化学同人

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	生徒指導		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。

科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

学修目標（＝到達目標）

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性が深まり、指導の組織と計画、生徒理解の方法、進路指導等についての実践力が身につく。そのためにも、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に積極的にかつ真剣に取り組むことが大切である。

内容

1	1.はじめに（生徒指導の意義と課題）
2	2．教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観
3	3．集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導
4	4．教育課程と生徒指導
5	5．児童生徒の心理と児童生徒理解
6	6．学校における生徒指導体制
7	7．生徒指導における教職員の役割、基本的な生活習慣の確立
8	8．児童生徒の安全に関わる問題
9	9．問題行動の早期発見と効果的な指導、発達に関する課題と対応、不登校生徒への対応方法
10	10．問題行動の対処や命の教育の実践方法（とくにいじめ問題に対する取り組みの方法）
11	11．生徒指導に関する法制度等
12	12．地域社会における児童生徒
13	13．学校を中心とした過程・地域・関係機関等との連携
14	14．社会の形成者としての資質の涵養に向けて
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への取り組みに対する授業態度（15%）、レポート（15%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】基本的には使用テキストを活用した授業であるが、1時間以上はそのテキストを事前に読み込んでおくこと。

【事後学修】授業で扱った箇所を重点的に1時間以上は復習することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省

【推薦書】「現場で役立つ生徒指導実践プログラム」新井肇 編著 学事出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

養護教諭の職務とされている保健管理を効果的に容易に実践できる資質を担保するために、これまで学んだ知識を基盤にしなが、必要となる実際的な事項について作成する、あるいは計画すること等について具体的に体験して学ぶものである。

科目の概要

学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法および技術的基準、事後処理等に関する具体的な方法、さらには保健管理をする上で必要となる計画等の作成方法について演習による体験学習をするものである。

学修目標 (= 到達目標)

養護教諭の職務内容に基づいて、その具体的な方法や作成方法について学び、それぞれの方法等の留意点や活用方法を習得するものである。

内容	
1	学校保健計画の根拠とその留意点について
2	学校保健計画及び評価計画の実際
3	定期健康診断実施計画立案時の留意点とその実際
4	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(1)(測定項目)
5	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(2)(検診項目)
6	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(3)(検診事前調査)
7	定期健康診断事後処理の実際
8	健康観察の留意点とその実際
9	保健室経営計画立案時の留意点について
10	保健室経営計画立案の実際
11	学校環境衛生検査の実際と学校薬剤師との連携について
12	学校医、学校歯科医、検査機関との連携について
13	「保健だより」作成の留意点について
14	「保健だより」作成の実際
15	まとめ

評価

レポートおよび資料作成の提出と内容7割、演習への取り組み態度3割とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

授業外学習

【事前予習】3年次前期までに履修をした専門科目を中心に、その概要を確認しておくこと。

【事後学修】これまでの学習してきた内容に、その都度内容を追加しながら、ポイントを理解すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「養護概説」 采女智津江他 少年写真新聞社

「学校保健の課題とその対応」 公益法人日本学校保健会

「学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規株式会社

【推薦書】

必要に応じて随時紹介する

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基礎に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭として求められる能力の向上を目指すものである。学修目標は これまで学んだ知識と技術を確認する。具体的な諸活動を立案し実践することができる。

内容	
1	学校で予防すべき感染症について
2	学校における感染症の対応の実際について
3	アレルギー疾患の理解と学校における対応について 1
4	アレルギー疾患の理解と学校における対応について 2
5	学校環境衛生の目的と法的根拠について
6	学校環境衛生基準と測定方法について 1
7	学校環境衛生基準と測定方法について 2
8	保健指導と保健学習の特質について
9	養護教諭が行う保健指導の進め方について
10	保健指導の実際と評価について
11	保健室経営と保健室経営計画について
12	保健室経営計画の作成と評価について
13	学校における保健組織活動について
14	学校安全と危機管理について
15	災害時等における心のケアについて まとめ

評価

筆記試験 (小テストを含む) 9 割、通常の授業態度 1 割により評価し、60 点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】毎授業時に次回の子習のための課題を出す。1 時間程度の予習が必要である。
- 【事後学修】授業で学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 教科書：新養護概説<第8版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社
- 推薦書：授業中に適宜示す

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人類共通の課題として国際理解、環境問題、福祉・健康・家族関係等があげられる。これらの中から養護教諭として担保しておかなければならない近年の課題について、これまでの履修科目では触れられなかった事項について、複数の教員の専門分野から指導を受け、児童生徒の健康の保持増進と健全育成を目指すものである。

学修目標は、随時配布する資料によりその内容を理解するとともに、これまで習得した知識との関連を持たせながら、授業内容の振り返り、ノートの整理をすることで、より理解を深め、養護教諭としての資質能力を高める。

内容

1	教育関係法令と教育行政について
2	中央教育審議会答申・学校保健安全法からみる養護教諭の職務について
3	養護教諭の職務内容について
4	学校保健計画・安全計画、危機管理における養護教諭の役割について
5	救急処置、歯科保健の実際
6	疾病の管理と予防の実際
7	健康診断の実際（児童生徒の健康診断）
8	健康診断の実際（就学时健康診断 教職員健康診断）
9	健康観察、環境衛生の実際
10	保健室経営の実際
11	学校医、学校歯科医、学校薬剤師の職務について
12	保健指導の機会と方法・評価について
13	喫煙・飲酒・薬物乱用教育について
14	児童虐待における養護教諭の役割について
15	まとめ

評価

レポート、資料作成を7割、授業に対する意欲・関心・態度3割とし60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習・事後学修】

学校保健・養護概説の学修を前提として授業を進める。各自で学校保健，養護概説を復習したのちに授業に参加する必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて、授業時に指示する。

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「養護概説」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指すものである。

学修目標は、 これまでに学んだ知識と技術の確認、 いかなる条件下においてもこれまで習得した教職関係及び心理学関係の知識を活用し、養護教諭としての的確な判断のによる対応能力の育成。

内容

1	養護教諭の専門領域における職務内容について【齋藤】
2	学校教育と学校保健について【増田】
3	学校教育と関連法規等について【増田】
4	学校組織の理解について【増田】
5	学校保健と関連法規等について【増田】
6	学校保健関係者とその連携（校内連携）について【増田】
7	学校保健関係者とその連携（校外連携）について【増田】
8	アレルギー疾患をもつ児童生徒の保健管理について【齋藤】
9	学校歯科保健への取組方法について【齋藤】
10	危険等発生時対処要領の内容としての心のケアについて【齋藤】
11	危機管理の一環としての救急体制について【齋藤】
12	事件・事故災害等における養護教諭の役割について【齋藤】
13	学校保健にかかわる諸帳簿の整理と管理について【齋藤】
14	子どもの心身の健康に関する諸統計の理解と活用方法について【齋藤】
15	まとめ【齋藤】

評価

小テスト及びレポート等提出 9 割、通常の授業態度 1 割 60 点以上合格とする。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】 1 . 2 年 , 3 年前期の教職科目の学修を前提に授業を行う。各自で復習をして授業に臨む必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

科目名	食品学		
担当教員名	梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、養護教諭教職課程の " 養護に関する科目 " の一つであり、養護教諭一種免許状を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

人の生命維持、成長、発達のために不可欠な「食品」についての理解を深める。食品成分（水分、タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、無機質）の化学特性、代表的な植物性食品および動物性食品の種類とそれぞれの特徴等を学修する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 食品の成分について、基礎的知識を得る。
2. 代表的な植物性食品および動物性食品の種類とそれぞれの特徴を知る。
3. 食品の機能を理解する。

内容

1	人間と食品
2	食品の分類、食品成分表
3	食品成分の化学(1)水分
4	食品成分の化学(2)タンパク質
5	食品成分の化学(3)脂質
6	食品成分の化学(4)炭水化物
7	食品成分の化学(5)ビタミン、無機質
8	加工、保蔵による食品成分の変化
9	植物性食品(1)穀類
10	植物性食品(2)いも類、豆類
11	植物性食品(3)野菜類、果実類
12	動物性食品(1)肉類、魚介類
13	動物性食品(2)乳類、卵類
14	食品の機能
15	まとめ

評価

中間試験30点、期末試験60点、授業への取り組み態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当部分をよく読み、わからない用語や疑問をまとめておく。

【事後学修】教科書や授業メモをもとに、学修した内容をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大石祐一・服部一夫編著「食べ物と健康 食品学」光生館

【参考図書】医歯薬出版編「最新日本食品成分表」医歯薬出版

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 この科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目です。管理栄養士国家試験受験資格取得のための学習を前提として、小・中学校において児童・生徒へ食育を実施する栄養教諭（教職免許）に必要な基礎的な内容を学びます。

科目の概要 近年、児童・生徒の食生活の乱れが深刻化し、メタボリックシンドローム予備群の増加が懸念されています。栄養教諭が学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が自ら望ましい食習慣を身につけるように育む食育は重要であり、そのために熟知しておくべき制度や背景など基礎的な内容を学習します。

学修目標 （１）栄養教諭の役割および職務内容について理解する （２）幼児、児童・生徒の栄養に係わる課題を理解する の2点とします。

内容	
1	栄養教諭とは
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の食事に関する実態把握及び分析等の必要事項
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命、役割
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	食生活に関する歴史
10	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会事情
11	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる諸制度
12	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる法令
13	国民、特に児童・生徒に関わる栄養問題
14	食事及び食物の文化的事柄
15	まとめ

評価

学則に従い、3分の2以上出席していることで評価を受けることができます。毎回のレポート30点及びペーパーテスト70点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕の はじめに と 目次 を読み、また各回の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例

をみましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕 医歯薬出版

【教科書】文部科学省 〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】川戸喜美枝編著 〔栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 〕（株）ぎょうせい

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 この科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要な科目であり、3年次前期に「栄養教諭実践論」で学習した内容を基礎とし、前提となる管理栄養士養成のための学びを加えて、具体的に応用・展開して児童・生徒へ指導する方法等を学んでいきます。

科目の概要 栄養教諭の職務内容は「学校給食管理」と「食に関する指導」です。給食を生きた教材とする学校現場での食育活動の実際を学び、さらに自ら指導案と教材・資料等を作成して、授業運営の模擬を行っていきます。

学修目標は、（ 1 ）食に関する指導方法の理解 （ 2 ）食に関する指導のための指導案、教材・資料の作成法の理解 （ 3 ）食に関する指導の模擬体験による授業運営法の理解 とします。

内容	
1	「食に関する指導」の位置づけを理解する
2	学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成
3	給食の時間における食に関する指導
4	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
5	体育科、保健体育科における食に関する指導
6	道徳、特別活動における食に関する指導
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
8	食物アレルギー、肥満傾向などの個別指導のあり方
9	演習1 食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	演習2 食に関する指導の指導案作り
11	演習3 作成した指導案の発表，相互批評など
12	演習4 模擬授業、指導効果の評価
13	学校、家庭が連携した食に関する指導
14	学校、地域（保健所、保健センター、食生活改善推進委員会）が連携した食に関する指導
15	まとめ

評価

学則に従い、3分の2以上出席していることで評価を受けることができます。毎回のレポートや課題発表等50点及びペーパーテスト50点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例

をみましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕 医歯薬出版

【教科書】文部科学省 〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】川戸喜美枝編著 〔栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 〕（株）ぎょうせい

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害の教科、教科等を合わせた指導、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成について、理解をさせる。

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について深めることを目的とする。また、知的障害児の教育課程を編成する上で重要な知的障害児の教科、教科等を合わせた指導について指導する。さらに、高等部における職業教育の在り方や進路指導、これらを支える個別の指導計画や個別の教育支援計画について、実際の特別支援学校の事例等を交えて講義を行う。

知的障害の児童生徒及び教育課程の特徴について理解し、特別支援学校教員としての基本的事項を身に付けること。

内容

第 1 回：知的障害教育における学習指導要領の変遷

第 2 回：知的障害教育の教育課程の基礎・基本

第 3 回：知的障害教育の教育課程 ・ 知的障害教育の各教科と領域、指導の形態

第 4 回：知的障害教育の教育課程 ・ 領域・教科別の指導

第 5 回：知的障害教育の教育課程 ・ 各教科等を合わせた指導 (遊びの指導、日常生活の指導)

第 6 回：知的障害教育の教育課程 ・ 各教科等を合わせた指導 (生活単元学習作業学習等)

第 7 回：障害特性に応じた教育、自閉症の教育課程

第 8 回：アセスメントと個別の指導計画

第 9 回：個に応じた指導と教材の開発・活用

第 1 0 回：高等部における職業教育とインターンシップ

第 1 1 回：高等特別支援学校と教育課程の類型化

第 1 2 回：個別の教育支援計画の作成と関係機関との連携

第 1 3 回：交流及び共同学習の実際

第 1 4 回：特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能

第 1 5 回：知的障害教育の今後の展望

評価

定期試験 (60%)、小テスト・レポートの提出 (30%) 及び授業に対する意欲・関心・態度等 (10%) とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参照し、当該箇所を知的障害教育概論の教科書により予習し、疑問点等を整理しておくこと

【事後学修】配布資料を参考に授業内容を整理し、出された課題についてまとめておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。特別支援学校学習指導要領は必ず持参すること。特別支援教育基礎論(放送大学出版)は、参考書として推薦する。

講義は、パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。

科目名	肢体不自由教育課程論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：「肢体不自由教育概論」で学んだ内容をベースに、さらに肢体不自由教育に関する専門的事項を学ぶ。本授業では、「自立活動」の指導内容を中心に講述する。

学修目標：1) 肢体不自由教育における教育課程と自立活動の意義について理解すること，2) 自立活動の指導内容と具体的な対応について理解すること，3) 肢体不自由教育における授業研究の方法について理解することの3点である。

内容

1	教育課程の編成と自立活動の意義
2	障害のとらえ方と自立活動
3	健康の保持
4	摂食指導 1
5	摂食指導 2
6	心理的な安定
7	人間関係の形成
8	身体の動き 1
9	身体の動き 2
10	コミュニケーション 1
11	コミュニケーション 2
12	自立活動の指導計画の作成と内容の取扱い
13	肢体不自由教育における授業研究 1
14	肢体不自由教育における授業研究 2
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点），最終試験（30点），毎回のリアクションペーパー（20点），授業時の参加態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業範囲のテキストを読んでおくこと。

【事後学修】授業で学習した内容の具体的な指導について調べ，理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」文部科学省，2009，海文堂出版株式会社，210円

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育課程論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱者(身体虚弱者を含む)に関する教育領域の科目である。

ここでは、病弱教育における教育課程について学び、他の講義での履修内容とあわせて、病弱児に対する教育的支援について理解を深める。

科目の概要

病弱教育における教育課程について、編成における基本的な考え方とその手順、内容及び配慮事項等について理解する。また教育課程の実施にあたって必要な、個々の病状や教育環境等に応じた個別の指導計画の作成、指導上配慮すべき点や教材・教具の創意・工夫等について理解する。

学修目標（＝到達目標）

病弱教育における教育課程の内容、及び個別の指導計画作成の手順や配慮事項等について理解する。

病状や活動制限等に応じた学習活動の設定や、教材・教具の創意・工夫等の必要性を理解する。

個々の実態に応じた自立活動の目標設定と内容の選定、指導方法等について理解する。

内容	
1	病弱教育について
2	病弱教育の現状
3	病弱教育における教育課程編成（1）
4	病弱教育における教育課程編成（2）
5	個別の指導計画の作成（1）
6	個別の指導計画の作成（2）
7	病弱教育における教科等の指導（1）
8	病弱教育における教科等の指導（2）
9	病弱教育における自立活動（1）
10	病弱教育における自立活動（2）
11	情報機器等の活用
12	重複障害を有する児童生徒の教育課程
13	医療機関等、関係諸機関との連携
14	教育課程及び個別の指導計画の評価と改善
15	まとめ

評価

筆記試験 70%、学修目標に関するレポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】特別支援学校と小・中学校の学習指導要領について、総則、自立活動の部分を読んでおく。シラバスを参照し、各時間または全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。

【事後学修】プリントや説明内容を再度確認して理解を深め、不明な点は質問等により理解を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業においてプリントを配布する。

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

知的障害児・者（肢体不自由児・者 病弱児・者）の障害特徴と教育の目標、方法、内容について基礎的な知識を学ぶ。
 個々の児童・生徒に合わせた発達支援の在り方の理解を深める。
 知的障害（肢体不自由・病弱）の定義、原因、分類、アセスメント及び行動特徴を心理学側面から学ぶ。
 現場の指導例、ケース検討を通して認知発達の様相と教育のもつ意味の理解をはかる。

内容

- 第1回：知的障害（肢体不自由・病弱）の定義
- 第2回：知的障害（肢体不自由・病弱）の原因と分類
- 第3回：知的障害の特徴（1）認知
- 第4回：知的障害の特徴（2）記憶と学習
- 第5回：知的障害の特徴（3）運動
- 第6回：言語とコミュニケーション
- 第7回：アセスメントの基礎
- 第8回：発達検査、知能検査
- 第9回：知的障害児（幼児）のケース検討と教育実践、就学相談
- 第10回：知的障害教育の実際(特別支援学校と特別支援学級)
- 第11回：知的障害教育の教育課程
- 第12回：個別の指導計画の作成と実施
- 第13回：知的障害（肢体不自由・病弱）の学校での支援体制
- 第14回：知的障害児（学齢期）のケース検討と教育実践
- 第15回：自立と就労・地域との連携

評価

試験による評価（70％）中間レポートによる評価（20％）平常の参加度の評価（10％）
 とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】シラバスを参照し、当該箇所を教科書により予習し、疑問点等を整理しておくこと
- 【事後学修】教科書及び配布資料を参考に授業内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書（テキスト）として、「阿部芳久著『知的障害児の特別支援教育入門』日本文化科学社発行」を使用する。講義は、
 パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。参考となる資料として、
 「北田耕也著、『痴愚天国幻視行近藤益雄の生涯』、国土社」は、その他の参考資料は、適宜紹介する。

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：肢体不自由教育の現状と課題についての基礎的理解を深め、それを基に肢体不自由教育の今日的課題に対する解決の方策を主体的に追求する姿勢を育成することを目的とする。本授業では、肢体不自由教育の歴史的変遷及び今日的課題について学び、主要な教育課題である教育内容・指導法について講述する。

学修の目標：1)特別支援教育における肢体不自由教育の特徴を歴史的展開の中で把握すること、2)肢体不自由教育の現状と課題について理解すること、3)今日的課題を解決する方策を追求して今後の方向性を修得することの3点である。

内容

1	肢体不自由教育の実際とその理解
2	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状の課題
3	肢体不自由児の就学指導と進路指導
4	肢体不自由教育の教育課程
5	肢体不自由児に対する指導形態等の工夫
6	各教科等の指導の工夫
7	肢体不自由児の指導法 1
8	肢体不自由児の指導法 2
9	肢体不自由児の指導法 3
10	肢体不自由児の指導法 4
11	交流及び共同学習
12	肢体不自由児のキャリア教育
13	授業づくりの基本
14	学習指導案の作成方法
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (30点) , 筆記試験 (30点) , 毎回のリアクションペーパー (20点) , 通常 of 受講時の態度 (20点) を加味して、総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】参考図書等、関連する文献を読んでおくこと。

【事後学修】授業で配布された資料を参考に、毎回出題する課題について理解をすること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。毎回授業時に資料を配付する。

【参考図書】「肢体不自由教育の基本とその展開」日本肢体不自由教育研究会監修 慶應義塾大学出版会

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育概論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱者(身体虚弱者を含む)に関する教育領域の科目である。
ここでは、病弱教育に関する基本的な事項について学び、次年度、病弱教育課程論を学修する。

科目の概要

初めに病弱教育の歴史を概観する。
その後、病弱教育の対象とされる子どもの実態や病弱教育の現状について把握した上で、教育上の配慮事項、病弱教育の意義、病弱教育に携わる教師の役割等について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

病弱教育の対象とされる子どもや、特別支援学校等に関する現状を理解する。
病弱の子どもの実態と、病弱教育における配慮事項について理解する。
病弱教育の意義と、病弱教育に携わる教師の役割について理解する。

内容	
1	病弱教育の歴史（１）
2	病弱教育の歴史（２）
3	病弱の子ども（１）
4	病弱の子ども（２）
5	病弱教育の現状（１）
6	病弱教育の現状（２）
7	本県の病弱教育（１）
8	本県の病弱教育（２）
9	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成
10	病弱教育における配慮事項
11	病院等、関係諸機関との連携
12	通常学級における病弱の子どもへの支援
13	病弱教育の意義
14	病弱教育に携わる教師
15	まとめ

評価

筆記試験 70%、学修目標に関するレポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

- 【事前予習】 病弱児、病弱教育について、知っていること、わからないことを整理する。
シラバスを参照し、各時間又は全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。
- 【事後学修】 プリントや説明内容を再度確認して理解を深め、不明な点は質問等により理解を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業においてプリントを配布する。

科目名	視覚障害教育概論		
担当教員名	神尾 裕治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

特別支援学校のみならず小・中学校等に在籍している見えにくい困難を覚えている幼児児童生徒に対して支援できる基礎的知識や指導方法内容を学習し、合理的配慮のできる教師を目指す。特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目

科目の概要

視覚障害とはどういうものを学び、視覚障害教育の歴史や制度を概観する。視覚障害の特性を踏まえた学習指導法(教育課程)、教材教具（点字、白杖歩行を含む）について研究し、教育現場で役に立つ知識を身につける。

学修目標（＝到達目標）

- a 視覚障害や視覚障害教育についての基礎的な知識を理解する。
- b 視覚障害教育の特色である視覚に頼らないまたは視覚を活用した指導法を、他障害の子どもにも活用することができる。
- c 視覚障害者の生活や職業・スポーツなどに興味関心を持ち積極的に関わろうとする。

内容

1	オリエンテーション（目の機能と視機能評価、視覚障害児の心理・生理・病理を含む）
2	視覚障害乳幼児の発達と支援（0歳からの早期支援、保護者支援、幼稚部における保育の実際）
3	視覚障害特別支援学校の教育課程（準ずる教育、個別の指導計画、個別の教育支援計画、施設）
4	触覚による観察の方法（触覚とは、両手を使って、部分と全体、立体と平面の触察）
5	触覚の活用と点字の指導（触体験の重要性と言語、点字の歴史、点字の構造、分かち書き）
6	点字の指導法の実際（点字の読みの指導、点字の書きの指導、読み速度の向上）
7	歩行指導の基礎と考え方（ボディーイメージと空間の把握、手がかりと地図、方向と言葉）
8	歩行指導の実際（音源歩行、ガイド歩行、白杖の使い方、交差点の渡り方）
9	情報機器の活用（六点入力・音声・点字出力、詳細読みによる漢字変換、タブレットの活用）
10	弱視児の指導（多様な見え方の理解、視覚認知を高める指導、視覚補助具の活用）
11	重複障害児の指導（教育課程、実態の把握、個別の指導計画、コミュニケーション指導）
12	キャリア教育・進路指導（我が国の視覚障害者の歴史、鍼灸等の理療教育、大学進学）
13	教材・教具（盲児の教材教具、弱視児の教材教具、拡大教科書、DAISY図書、音訳・点訳）
14	視覚障害者の生活（日常生活不便さ調査、視覚障害者のスポーツ、全国盲学校弁論大会）
15	まとめ（障害者の権利条約と合理的配慮）

評価

授業への参加度(30点)、レポート(40点)、試験(30点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習する内容について事前に調べ、問題意識を持って授業に臨むこと。

【事後学習】小レポートを確実に仕上げ提出すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「特別支援学校学習指導要領」

【推薦書】青柳まゆみ・鳥山由子編著「視覚障害教育入門」ジアース教育新社

香川邦生「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」教育出版

【参考図書】必要に応じて授業で紹介する

科目名	聴覚障害教育概論		
担当教員名	大鹿 綾		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

特別支援教育免許を取得希望の学生、また特別支援教育に興味のある学生を対象とします。

科目の概要

聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知るとともに、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。また、聴覚障害が発達に及ぼす影響を知り、障害特性に応じた教育について知見を得ることを目的とする。

学修目標（＝到達目標）

聴覚障害の生理病理的な知識を得る。

聴覚障害児の学びやその課題について理解する。

聴覚障害に配慮した指導の在り方について考えることができる。

内容	
1	聴覚障害児のための学校制度
2	聴覚障害児教育の歴史
3	聴覚障害が発達に及ぼす影響 コミュニケーション・社会性
4	聴覚障害が発達に及ぼす影響 言語獲得
5	聴覚障害児の言語指導
6	乳幼児期からの指導と障害受容
7	聾文化と手話
8	耳の仕組み
9	きこえないとは
10	聴覚障害の種類
11	補聴器に出来ること、出来ないこと
12	人工内耳とは
13	聴力検査
14	生活の中でのバリア
15	まとめ

評価

授業への参加度25%、筆記試験75%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】参考書やインターネットを活用して自ら興味を深めることを期待する。

【事後学修】授業の内容についてしっかりと復習し、質問があれば積極的にしてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない プリントを配布する

【推薦書】授業内で指定する

【参考図書】授業内で指定する

科目名	重複障害教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：重複障害，重度・重複障害教育に関して，その概念，障害実態，教育の現状や課題等について理解を深めることを目的とする。本授業では，重複障害者の教育課程編成，重複障害（視覚障害＋聴覚障害，知的障害＋肢体不自由），重度・重複障害児の理解と指導法，指導計画の作成について講述する。

学修目標：1）重複障害及び重度・重複障害の概念，教育課程の取扱い，教育の現状と課題について理解すること，2）重複障害児及び重度・重複障害児の理解と指導のポイントについて理解すること，3）指導計画作成の流れを理解することの3点である。

内容

1	重複障害，重度・重複障害の概念と教育の現状
2	重複障害教育の課題
3	重複障害者等に関する教育課程の取扱い
4	個別の教育支援計画と進路指導
5	個別の指導計画作成と評価
6	重複障害児の実態把握の観点
7	重複障害児（視覚障害＋聴覚障害）の指導 1
8	重複障害児（視覚障害＋聴覚障害）の指導 2
9	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 1
10	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 2
11	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 3
12	重度・重複障害児の発達特性
13	重複障害児教育の教材・教具，支援機器
14	重度・重複障害児の生涯に渡る包括的支援
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点），筆記試験（30点），毎回のリアクションペーパー（20点），通常の受講時の態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各障害の特徴について理解をしておくこと。

【事後学修】授業時に出題する課題について調べ，理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で推薦する。授業時に関係する資料を配付する。

科目名	教育実習		
担当教員名	阿子島 茂美、岩井 雄一、吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教科教育法や教職関連科目等によって習得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うに当たって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお、本科目は、教育職員免許法に定める特別支援学校教員免許を取得するための「教育実習」を含む3単位に相当する。

内容

- 1、事前指導（8時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習オリエンテーション
 - （2）実習時における勤務、サービスの心得
 - （3）実習記録の作成法
 - （4）授業の構成と指導案の作成
 - （5）実習校の訪問
- 2、教育実習協力校による2週間の教育実習
- 3、中間指導（4時限相当の時間を配当する）
 - （1）実習時における課題の把握
 - （2）実習日誌の中間提出
 - （3）研究授業及び実習についての指導
- 4、事後指導（3時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習の総括的反省と今後の課題
 - （2）実習校の訪問

評価

実習校からの評価を参考に100点満点で評定する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】資料に基づく、教育実習に向けた事前の心構え、教師としての身に付けておくべきこと等を整理しておくこと。
- 【事後学修】教育実習に向けて、各自の課題を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習の手引き及び実習日誌を配布する。その他は、授業の際に指示する。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美、吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状とインクルーシブ教育システムの構築
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥／多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に事前に参考書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】「特別支援教育基礎論」吉田昌義、鳥居深雪編著、放送大学出版 「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所著作、ジアース教育新社発行

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践

金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践

金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読んでおくこと

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。